

**令和 6 年度  
河川水辺の国勢調査結果の概要(事務局案)**

**[ダム湖版]  
(生物調査編)  
〈両生類・爬虫類・哺乳類調査結果〉**

**令和 8 年 3 月 23 日時点**

# 目次

<b>6. 両生類・爬虫類・哺乳類調査の概要</b>	<b>6-1</b>
6.1 調査結果の概要	6-1
(1) 確認種数（両生類）	6-1
(2) 確認種数（爬虫類）	6-1
(3) 確認種数（哺乳類）	6-1
(4) 重要種（両生類・爬虫類・哺乳類）	6-1
(5) 国外外来種等（両生類・爬虫類・哺乳類）	6-2
1) 国外外来種の確認状況	6-2
2) 特定外来生物等の確認状況	6-2
6.2 生物多様性	6-8
(1) 国外外来種の分布状況（生物多様性への攪乱）	6-8
(2) 国外外来種の分布状況（拡大傾向にある新たな国外外来種）	6-20
6.3 注目すべき種の分布状況	6-23
(1) 農林業とかかわりが大きい哺乳類（サル、クマ、シカ、イノシシ）の確認状況	6-23
(2) カメ目（ミシシippアカミミガメ、クサガメ、ニホンイシガメ、ニホンスッポン）の分布状況	6-33
6.4 ダム管理との関わり（ダム湖周辺の生物相）	6-38
(1) ダム湖周辺の自然度・健全度	6-38
1) 溪流環境の指標となる両生類・哺乳類の確認状況	6-38
(2) 新しい環境の生物相	6-52
1) 地形改変箇所における確認状況	6-52
2) 環境創出箇所における確認状況	6-55
・分析対象種の確認ダムの経年比較【両生類・爬虫類・哺乳類】エラー! ブックマークが定義されていません。	
・令和6年度河川水辺の国勢調査 [ダム湖版] とりまとめ対象ダム 現地調査実施状況（両生類・爬虫類・哺乳類）	
・令和6年度 とりまとめ対象水系（ダム）位置図（両生類・爬虫類・哺乳類）	

## 6. 両生類・爬虫類・哺乳類調査の概要

### 6.1 調査結果の概要

#### (1) 確認種数（両生類）

令和6年度（2024年度）に両生類調査が実施された6ダムにおいて、2目7科13種の両生類が確認されました。「日本産野生生物目録 脊椎動物編（環境庁,1993）」には、59種の両生類が掲載されており、今回確認された種数は、その約22%に相当します。

確認された両生類のうち、最も多くのダムで確認された種はニホンアマガエルとヌマガエルであり、6ダムすべてで確認されました。

水辺に生息するサンショウウオ類は1種が確認され、チクシブチサンショウウオが九州の下笠ダム、松原ダム、大山ダム、小石原川ダムの4ダムで確認されました。

#### (2) 確認種数（爬虫類）

令和6年度（2024年度）に爬虫類調査が実施された6ダムにおいて、2目8科13種の爬虫類が確認されました。「日本産野生生物目録 脊椎動物編（環境庁,1993）」には、87種の爬虫類が掲載されており、今回確認された種数は、その約15%に相当します。

確認された爬虫類のうち、最も多くのダムで確認された種はニホンカナヘビであり、6ダムすべてで確認されました。

#### (3) 確認種数（哺乳類）

令和6年度（2024年度）に哺乳類調査が実施された6ダムにおいて、7目13科26種の哺乳類が確認されました。「日本産野生生物目録 脊椎動物編（環境庁,1993）」には、188種の哺乳類が掲載されており、今回確認された種数は、その約14%に相当します。

確認された哺乳類のうち、最も多くのダムで確認された種はヒナコウモリ科、アカネズミ、カヤネズミ、アライグマ、タヌキ、キツネ、イタチ属であり6ダムすべてで確認されました。

（注）調査を実施したダムについて

令和6年度（2024年度）に調査を実施した6ダムのうち、九州の大山ダム、小石原川ダム、巨勢川調整池は1巡目の調査となります。

#### (4) 重要種（両生類・爬虫類・哺乳類）

今回とりまとめを行った6ダムでは、両生類・爬虫類・哺乳類を合わせて4目5科5種の重要種<sup>注)</sup>が確認されました。確認された重要種のうち、レッドリストのランクの内訳をみると、今回の確認で最もランクが高い絶滅危惧Ⅱ類（VU）に該当する種は、チクシブチサンショウウオ、ノレンコウモリの2種でした。

(注) 重要種について

本資料においては、次の文献のいずれかに該当する種や亜種を重要種としました。

- ・「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種および特定第二種国内希少野生動植物種

国内希少野生動植物種（国内）：国内に生息・生育する絶滅のおそれのある野生生物のうち、人為の影響により存続に支障を来す事情が生じていると判断される種（又は亜種・変種）で、捕獲・採取、譲渡等が原則禁止される種（又は亜種・変種）。

特定第二種国内希少野生動植物種（第二）：国内に生息・生育する絶滅のおそれのある野生生物のうち、人為の影響により存続に支障を来す事情が生じていると判断される種（又は亜種・変種）で、個体の数が著しく少ないものでない等、一定の条件を満たす種（又は亜種・変種）。捕獲等、譲渡等の規制のうち、販売・頒布目的の行為のみが禁止される種（又は亜種・変種）。

- ・「環境省レッドリスト 2020 の公表について（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）」（環境省レッドリスト 2020：令和 2 年（2020 年）3 月 27 日報道発表資料）の掲載種

絶滅危惧 I A 類（CR）：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種

絶滅危惧 I B 類（EN）：I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種

絶滅危惧 II 類（VU）：絶滅の危険が増大している種

準絶滅危惧（NT）：現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

情報不足（DD）：評価するだけの情報が不足している種

絶滅のおそれのある地域個体群（LP）：地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

(5) 国外外来種等（両生類・爬虫類・哺乳類）

1) 国外外来種の確認状況

今回とりまとめを行った 6 ダムでは、4 目 4 科 5 種の国外外来種<sup>注1)</sup>が確認されました。

確認された外来種のうち、最も多くのダムで確認された種はアライグマであり、6 ダムすべてで確認されました。

2) 特定外来生物等の確認状況

特定外来生物法で特定外来生物<sup>注2)</sup>に指定されている種として、ウシガエル、アライグマの 2 種が、条件付特定外来生物はミシシippia カミミガメの 1 種が確認されました。生態系被害防止外来種リスト<sup>注3)</sup>掲載種としては、確認された外来種 5 種すべてが該当しました。

(注) 国外外来種の選定基準について

- 1) 外来種とは、本来その生物が生息していない地域に貿易や人の移動等を介して意図的・非意図的に導入された種をいいます。外来種のうち、日本国外から持ち込まれた種を「国外外来種」といい、日本国内の種であっても本来その生物が生息していない地域に、ほかの場所から持ち込まれた種は「国内外来種」といいます。本資料における国外外来種とは、おおむね明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物すべてを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、選定の際に考慮していません。
- 2) 特定外来生物とは、『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（平成 17 年（2005 年）6 月 1 日施行）』により、輸入や飼養等が規制される生物（生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれます）です。おおむね明治以降に国外から導入された国外外来種のうち、生態系、人の生命・身体および農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがある生物が指定されています。なお、特定外来生物のうちアメリカザリガニとミシシippアカミミガメの 2 種については、通常の特定外来生物の規制の一部を適用除外とする「条件付特定外来生物（通称）」に指定されています。
- 3) 総合対策外来種は、「国内に定着が確認されているもの。生態系等への被害のおそれがあるため、国、地方公共団体、国民など各主体がそれぞれの役割において、防除（野外での取り除き、分布拡大の防止等）、遺棄・導入・逸出防止等のための普及啓発など総合的に対策が必要な外来種」として選定されています。以下の 3 つに細分化されています。

(i) 緊急対策外来種

「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方にに基づき、被害の深刻度に関する基準<sup>\*1</sup>として①～④のいずれかに該当することに加え、対策の実効性、実行可能性として⑤に該当する種。特に緊急性が高く、特に、各主体がそれぞれの役割において、積極的に防除を行う必要がある。

(ii) 重点対策外来種

「外来種被害防止行動計画」における対策の優先度の考え方にに基づき、被害の深刻度に関する基準<sup>\*1</sup>として①～④のいずれかに該当する種。甚大な被害が予想されるため、特に、各主体のそれぞれの役割における対策の必要性が高い。

(iii) その他の総合対策外来種

<sup>\*1</sup> 緊急対策外来種、重点対策外来種における対策の優先度の考え方

(被害の深刻度に関する基準)

- ① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大
- ② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い
- ③ 絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い
- ④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して甚大な被害を及ぼす

(対策の実効性、実行可能性)

- ⑤ 防除手法が開発されている、又は開発される見込みがある等、一定程度の知見があり、対策の目標を立て得る

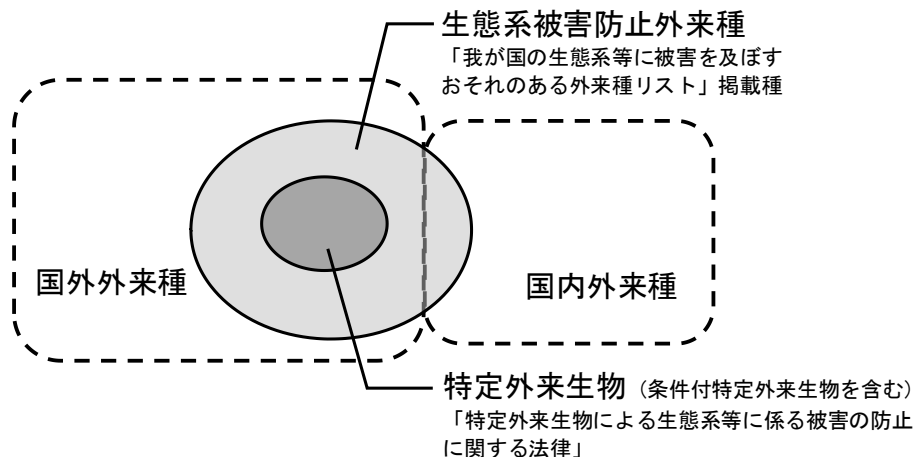


図 6-1 (参考) 国外外来種、生態系被害防止外来種、特定外来生物の関係

表 6-1 両生類確認種一覧（令和 6 年度（2024 年度））

No.	目和名	科和名	種和名	学名	九州						確認ダム数
					下笠ダム	松原ダム	大山ダム	寺内ダム	小石原川ダム	巨勢川調整池	
1	有尾目	サンショウウオ科	チクシブチサンショウウオ	<i>Hynobius oyamai</i>	●	●	●		●		4
2		イモリ科	アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>	●	●	●	●	●		5
3	無尾目	ヒキガエル科	ニホンヒキガエル	<i>Bufo japonicus</i>	●	●	●	●	●		5
4		アマガエル科	ニホンアマガエル	<i>Dryophytes japonicus</i>	●	●	●	●	●	●	6
5		アカガエル科	タゴガエル	<i>Rana tagoi</i>	●	●	●		●		5
6			ニホンアカガエル	<i>Rana japonica</i>		●					1
7			ヤマアカガエル	<i>Rana ornativentris</i>	●	●	●		●		4
8			トノサマガエル	<i>Pelophylax nigromaculatus</i>	●		●	●	●		5
9			ウシガエル	<i>Lithobates catesbeianus</i>				●		●	2
10			ツチガエル	<i>Glandirana rugosa</i>	●	●	●				3
11		ヌマガエル科	ヌマガエル	<i>Fejervarya kawamurai</i>	●	●	●	●	●	●	6
12		アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	<i>Zhangixalus schlegelii</i>	●	●	●	●	●		4
13			カジカガエル	<i>Buergeria buergeri</i>	●	●	●	●	●		5
	2目	7科	13種	確認種類数	11種	11種	11種	9種	10種	3種	

注 1) ○は当該ダムにおいて種数としてカウントしていない（I-5 頁種数の計数方法参照）。

注 2) ▲▲属、□□科、××目という表記は、各下位の分類階級まで同定されていないものである。

注 3) 確認ダム数の灰色表示■は、最も確認ダム数が多い数値を示す。

表 6-2 爬虫類確認種一覧（令和 6 年度（2024 年度））

	目和名	科和名	種和名	学名	九州						確認ダム数
					下笠ダム	松原ダム	大山ダム	寺内ダム	小石原川ダム	巨勢川調整池	
1	カメ目	イシガメ科	クサガメ	<i>Mauremys reevesii</i>						●	1
2		ヌマガメ科	ミシシippアカミミガメ	<i>Trachemys scripta elegans</i>				●		●	2
3		スッポン科	スッポン属	<i>Pelodiscus sp.</i>						●	1
-		-	カメ目	Testudines						○	1
4	有鱗目	ヤモリ科	ニホンヤモリ	<i>Gekko japonicus</i>	●	●	●			●	4
-			ヤモリ属	<i>Gekko sp.</i>	○	○	○	●			4
5		トカゲ科	ニホントカゲ	<i>Plestiodon japonicus</i>	●	●	●	●	●		5
6		カナヘビ科	ニホシカナヘビ	<i>Takydromus tachydromoides</i>	●	●	●	●	●	●	6
7		ナミヘビ科	シマヘビ	<i>Elaphe quadrivirgata</i>	●	●	●	●		●	5
8			アオダイショウ	<i>Elaphe climacophora</i>	●	●	●	●			4
9			ジムグリ	<i>Euprepiophis conspicillatus</i>	●	●	●	●	●		5
10			シロマダラ	<i>Lycodon orientalis</i>		●	●				2
11			ヒバカリ	<i>Hebius vibakari vibakari</i>	●		●	●			3
12			ヤマカガシ	<i>Rhabdophis tigrinus</i>	●	●	●	●	●		5
13		クサリヘビ科	ニホンマムシ	<i>Gloydius blomhoffii</i>	●	●			●		3
	2目	8科	13種	確認種類数	9種	9種	9種	9種	5種	6種	

注 1) ○は当該ダムにおいて種数としてカウントしていない（I-5 頁種数の計数方法参照）。

注 2) ▲▲属、□□科、××目という表記は、各下位の分類階級まで同定されていないものである。

注 3) 確認ダム数の灰色表示■は、最も確認ダム数が多い数値を示す。

表 6-3 哺乳類確認種一覧（令和 6 年度（2024 年度））

No.	目和名	科和名	種和名	学名	九州						確認ダム数
					下釜ダム	松原ダム	大山ダム	寺内ダム	小石原川ダム	巨勢川調整池	
1	モグラ目（食虫目）	トガリネズミ科	ジネズミ	<i>Crocidura dsinezumi</i>	●	●	●		●	●	5
2			カワネズミ	<i>Chimarrogaie platycephalus</i>	●	●	●		●		4
3		モグラ科	ヒミズ	<i>Urotrichus talpoides</i>	●	●	●				3
4			モグラ属	<i>Mogera sp.</i>	●	●	●	●	●	●	6
5	コウモリ目（翼手目）	キクガシラコウモリ科	コキクガシラコウモリ(ニホンコキクガシラコウモリ)	<i>Rhinolophus cornutus (R. c. cornutus)</i>	●	●	●	●			3
6			キクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	●	●	●	●	●		5
7		ヒナコウモリ科	ハシコウモリ	<i>Myotis nattereri</i>		●					1
8			ユビナガコウモリ	<i>Miniopterus fuliginosus</i>		●					1
9			コテンゴコウモリ	<i>Murina ussuriensis</i>		●					1
-			ヒナコウモリ科	Vespertilionidae	●	○	●	●	●	●	6
10	サル目（霊長目）	オナガザル科	ニホンザル	<i>Macaca fuscata</i>	●			●	●	2	
11	ウサギ目	ウサギ科	ノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>	●	●	●	●	●	5	
12	ネズミ目（齧歯目）	リス科	ムササビ	<i>Petaurista leucogenys</i>	●	●	●	●	●	5	
13			ネズミ科	スミスネズミ	<i>Crasomys smithii</i>		●				1
14			アカネズミ	<i>Apodemus speciosus</i>	●	●	●	●	●	6	
15			ヒメネズミ	<i>Apodemus argenteus</i>	●	●	●	●	●	4	
16			カヤネズミ	<i>Micromys minutus</i>	●	●	●	●	●	6	
17			ハツカネズミ	<i>Mus musculus</i>				●		1	
18			ドブネズミ	<i>Rattus norvegicus</i>	●					1	
-			ネズミ科	Muridae					○		1
19	ネコ目（食肉目）	アライグマ科	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>	●	●	●	●	●	●	6
20		イヌ科	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	●	●	●	●	●	●	6
21			キツネ	<i>Vulpes vulpes</i>	●	●	●	●	●	●	6
22		イタチ科	テン(ホンドテン)	<i>Martes melampus (M. m. melampus)</i>	●	●	●	●	●	●	5
23			イタチ属	<i>Mustela sp.</i>	●	●	●	●	●	●	6
24			アナグマ	<i>Meles anakuma</i>	●	●	●	●	●	●	5
25	ウシ目（偶蹄目）	イノシシ科	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>	●	●	●	●	●	5	
26		シカ科	ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>	●	●	●	●	●	5	
	7目	13科	25種	確認種類数	22種	23種	19種	18種	18種	9種	

- 注 1) ○は当該ダムにおいて種数としてカウントしていない（I-5 頁種数の計数方法参照）。  
 注 2) ▲▲属、□□科、××目という表記は、各下位の分類階級まで同定されていないものである。  
 注 3) 確認ダム数の灰色表示■は、最も確認ダム数が多い数値を示す。

表 6-4 両生類・爬虫類・哺乳類重要種一覧（令和 6 年度（2024 年度））

No.	目和名	科和名	種和名	学名	①	②	③	九州						確認ダム数
								下釜ダム	松原ダム	大山ダム	寺内ダム	小石原川ダム	巨勢川調整池	
1	有尾目	サンショウウオ科	チクシブチサンショウウオ	<i>Hynobius oyamai</i>		第二	VU	●	●	●		●		4
2		イモリ科	アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>			NT	●	●	●	●	●		5
3	無尾目	アカガエル科	トノサマガエル	<i>Pelophylax nigromaculatus</i>			NT	●	●	●	●	●		5
4	モグラ目(食虫目)	トガリネズミ科	カワネズミ	<i>Chimarrogale platycephalus</i>			LP	●	●	●		●		4
5	コウモリ目(翼手目)	ヒナコウモリ科	ノレンコウモリ	<i>Myotis nattereri</i>			VU		●					1
	4目	5科	5種	確認種類数	0種	1種	5種	4種	5種	4種	2種	4種	0種	

凡例)

選定基準

①文化財保護法（昭和 25 年（1950 年））

特天：特別天然記念物 天然：天然記念物

②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律〔種の保存法〕（平成 5 年（1993 年））

国内：国内希少野生動植物種 - 国内に生息・生育する絶滅のおそれのある野生生物のうち、人為の影響により存続に支障を来す事情が生じていると判断される種（又は亜種・変種）で、捕獲・採取、譲渡し等が原則禁止される種（又は亜種・変種）。

第二：特定第二種国内希少野生動植物種 - 国内に生息・生育する絶滅のおそれのある野生生物のうち、人為の影響により存続に支障を来す事情が生じていると判断される種（又は亜種・変種）で、個体の数が著しく少ないものでない等、一定の条件を満たす種（又は亜種・変種）。捕獲等、譲渡等の規制のうち、販売・頒布目的の行為のみが禁止される種（又は亜種・変種）。

③「環境省レッドリスト 2020 の公表について（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）」（環境省レッドリスト 2020：令和 2 年（2020 年）3 月 27 日報道発表資料）

CR：絶滅危惧ⅠA類 - ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種

EN：絶滅危惧ⅠB類 - ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種

VU：絶滅危惧Ⅱ類 - 絶滅の危険が増大している種

NT：準絶滅危惧 - 現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

DD：情報不足 - 評価するだけの情報が不足している種

LP：絶滅のおそれのある地域個体群 - 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの（○は LP に指定されていない地域であり種数としてカウントしていない）

表 6-5 両生類・爬虫類・哺乳類国外外来種一覧（令和6年度（2024年度））

No.	目和名	科和名	種和名	学名	外来種	九州						確認ダム数
						下笠ダム	松原ダム	大山ダム	寺内ダム	小石原川ダム	巨勢川調整池	
1	無尾目	アカガエル科	ウシガエル	<i>Lithobates catesbeianus</i>	特定 総合対策(重点)				●		◎	2
2	カメ目	ヌマガメ科	ミシシッピアカミミガメ	<i>Trachemys scripta elegans</i>	特定・条件付 総合対策(緊急)				◎		◎	2
3	ネズミ目(齧歯目)	ネズミ科	ハツカネズミ	<i>Mus musculus</i>	総合対策(重点)				●			1
4			ドブネズミ	<i>Rattus norvegicus</i>	総合対策(重点)	●						1
5	ネコ目(食肉目)	アライグマ科	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>	特定 総合対策(緊急)	●	●	◎	●	◎	◎	6
	4目	4科	5種	確認種類数		2種	1種	1種	4種	1種	3種	

注1) ●◎は確認（うち◎は、P6-56～P6-59に示す分析対象種のうち、当該ダム等で今回初確認）を示す。

注2) ○は当該ダムにおいて種数としてカウントしていない（I-5頁種数の計数方法参照）。

凡例)

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（以下「特定外来生物法」）」指定種

特定：特定外来生物

特定・条件付：条件付特定外来生物

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（以下「生態系被害防止外来種リスト」）」掲載種

定着予防（侵入予防）：国内に未侵入・未定着であり、定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、特に国内への侵入を未然に防ぐ必要がある外来種。

定着予防（その他）：侵入の情報はあるが、国内に未定着であり、定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、早期防除が必要な外来種。

総合対策（緊急）：国内に定着が確認されており、生態系等への被害のおそれがあるため、総合的に対策が必要な外来種のうち、緊急性が高く、積極的に防除が必要な外来種。

総合対策（重点）：国内に定着が確認されており、生態系等への被害のおそれがあるため、総合的に対策が必要な外来種のうち、甚大な被害が予想される重点的に対策が必要な外来種。

総合対策（その他）：国内に定着が確認されており、生態系等への被害のおそれがあるため、総合的に対策が必要な外来種のうち、緊急、重点に該当しない種。

産業管理：産業又は公益的役割において重要であり、利用において逸出等の防止のための適切な管理に重点を置いた対策が必要な外来種。

## 6.2 生物多様性

日本の生物多様性の危機の原因の一つとして、「外来種等人為的に持ち込まれたものによる生態系の攪乱」が挙げられています。

両生類・爬虫類・哺乳類では、ペットや家畜等として輸入された種のほか、本来は日本に生息しない国外の生物種が侵入し、自然界へ広がっている例が数多くみられます。

国外外来種が生態的に優勢な場合、在来の種が排除されたり、置き換わったりすることがあります。また、タイワンザルとニホンザルのように自然界では起こらない交雑によって雑種が生まれ、地域で保有されている固有の遺伝子が喪失することが懸念されています。そのほか、在来の小動物や植物等を捕食することによる、地域生態系への影響についても指摘されています。

### (1) 国外外来種の分布状況（生物多様性への攪乱）

ここでは、人為的な生態系の攪乱状況を明らかにするために、国外外来種で、特定外来生物に指定されているウシガエル、シロアゴガエル、ヌートリア、アライグマ、マスカラット、ミンク、ファイリマングース、条件付特定外来生物に指定されているミシシippアカミミガメおよび生態系被害防止外来種リスト掲載種であるハクビシンの確認状況について整理しました。

#### ・特定外来生物に指定されたウシガエルを2ダムで、アライグマを6ダムで、条件付特定外来生物に指定されたミシシippアカミミガメを2ダムで確認

地域生態系への影響や遺伝子攪乱などが懸念されている国外外来種について、確認状況を整理しました。今回とりまとめを行った6ダムでは、特定外来生物に指定されているウシガエルが2ダムで、アライグマが全6ダムで、条件付特定外来生物に指定されているミシシippアカミミガメが2ダムで確認されました。

表 6-6 国外外来種の確認ダム数の巡目比較

種名	区分	1 巡目調査 (80 ダム)	2 巡目調査 (82 ダム)	3 巡目調査 (96 ダム)	4 巡目調査 (111 ダム)	5 巡目調査 (110 ダム)	今回 確認
ウシガエル	特定 総合対策(重点)	15/80 ダム [18.8%]	18/82 ダム [22.0%]	21/96 ダム [21.9%]	25/111 ダム [22.5%]	22/110 ダム [20.0%]	○
シロアゴガエル	特定 総合対策(重点)	3/5 ダム [60.0%]	6/6 ダム [100.0%]	6/7 ダム [85.7%]	7/7 ダム [100.0%]	2/2 ダム [100.0%]	
ヌートリア	特定 総合対策(緊急)	5/80 ダム [6.3%]	12/82 ダム [14.6%]	17/96 ダム [17.7%]	12/111 ダム [10.8%]	9/110 ダム [8.2%]	
アライグマ	特定 総合対策(緊急)	1/80 ダム [1.3%]	1/82 ダム [1.2%]	9/96 ダム [9.4%]	26/111 ダム [23.4%]	47/110 ダム [42.7%]	○
マスカラット	特定 総合対策(重点)	1/80 ダム [1.3%]	0/82 ダム [0.0%]	0/96 ダム [0.0%]	0/111 ダム [0.0%]	0/110 ダム [0.0%]	
ミンク	特定 総合対策(重点)	2/80 ダム [2.5%]	2/82 ダム [2.4%]	4/96 ダム [4.2%]	3/111 ダム [2.7%]	6/110 ダム [5.5%]	
ファイリマングース	特定 総合対策(緊急)	1/5 ダム [20.0%]	2/6 ダム [33.3%]	4/7 ダム [57.1%]	3/7 ダム [42.9%]	1/2 ダム [50.0%]	
ミシシッピ アカミミガメ	特定・条件付 総合対策(緊急)	5/80 ダム [6.3%]	12/82 ダム [14.6%]	17/96 ダム [17.7%]	24/111 ダム [21.6%]	23/110 ダム [20.9%]	○
ハクビシン	総合対策(重点)	18/80 ダム [22.5%]	25/82 ダム [30.5%]	39/96 ダム [40.6%]	68/111 ダム [61.3%]	74/110 ダム [67.3%]	

注 1) ( ) 内は各巡目において調査を実施しているダムの数を示す。巡目の途中から調査を行っていたり、途中の年度を調査していないダムがあるため、巡目毎の調査ダム数は同じではない。

注 2) [ ] 内は確認ダム数の対象ダム数に対する%を示す。なお、シロアゴガエル、ファイリマングースについては河川水辺の国勢調査では沖縄のみで確認されているため、比較対象ダムは沖縄のダムのみとしている。

注 3) アライグマにはカニクイアライグマを含む可能性がある。

注 4) 生態系被害防止外来種リストには、亜種ミシシッピアカミミガメを含む種アカミミガメが掲載されている。

凡例)

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（以下「特定外来生物法）」指定種

特定：特定外来生物

特定・条件付：条件付特定外来生物

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（以下「生態系被害防止外来種リスト）」掲載種

定着予防（侵入予防）：国内に未侵入・未定着であり、定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、特に国内への侵入を未然に防ぐ必要がある外来種。

定着予防（その他）：侵入の情報はあがるが、国内に未定着であり、定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、早期防除が必要な外来種。

総合対策（緊急）：国内に定着が確認されており、生態系等への被害のおそれがあるため、総合的に対策が必要な外来種のうち、緊急性が高く、積極的に防除が必要な外来種。

総合対策（重点）：国内に定着が確認されており、生態系等への被害のおそれがあるため、総合的に対策が必要な外来種のうち、甚大な被害が予想される重点的に対策が必要な外来種。

総合対策（その他）：国内に定着が確認されており、生態系等への被害のおそれがあるため、総合的に対策が必要な外来種のうち、緊急、重点に該当しない種。

産業管理：産業又は公益的役割において重要であり、利用において逸出等の防止のための適切な管理に重点を置いた対策が必要な外来種。

両生類・爬虫類・哺乳類の外来種は、食肉用や毛皮用、ペット等の目的で飼育していた個体や害虫および害獣駆除の目的で導入された個体が野外に逸出し、野生化したものが主となっています。これらの外来種については、在来種と餌や繁殖場所をめぐって競合し、駆逐したり、在来種と交雑して遺伝的攪乱が生じたりする可能性が指摘されています。また、両生類・爬虫類・哺乳類は、食物連鎖の比較的上位に位置する種が多いことから、希少な在来固有種である昆虫類や鳥類、小動物、植物等を捕食し、島等の狭い空間ではそれらを絶滅に追いやる場合があります。さらに、農作物への食害や、民家等への侵入といった人間活動に関する被害も報告されています。

今回とりまとめを行った6ダムでは、特定外来生物に指定されている種はウシガエル、アライグマの2種が、条件付特定外来生物に指定されている種はミシシippアカミミガメの1種が確認されました。シロアゴガエル、ヌートリア、マスカラット、ミンク、ファイリマングース、ハクビシンは確認されませんでした。

ウシガエルは6ダム中、九州の寺内ダム、巨勢川調整池の2ダムで確認されました。巨勢川調整池では初めての確認となっています。

アライグマは6ダム中、九州の下笠ダム、松原ダム、大山ダム、寺内ダム、小石原川ダム、巨勢川調整池の全6ダムで確認されました。大山ダム、小石原川ダム、巨勢川調整池では初めての確認となっています。

ミシシippアカミミガメは6ダム中、九州の寺内ダム、巨勢川調整池の2ダムで確認されました。寺内ダムと巨勢川調整池では初めての確認となっています。

ダム湖周辺での外来生物の確認状況としては、確認割合が横ばい又は増加傾向にある種が多く、今後も継続して分布状況を把握していく必要があります。

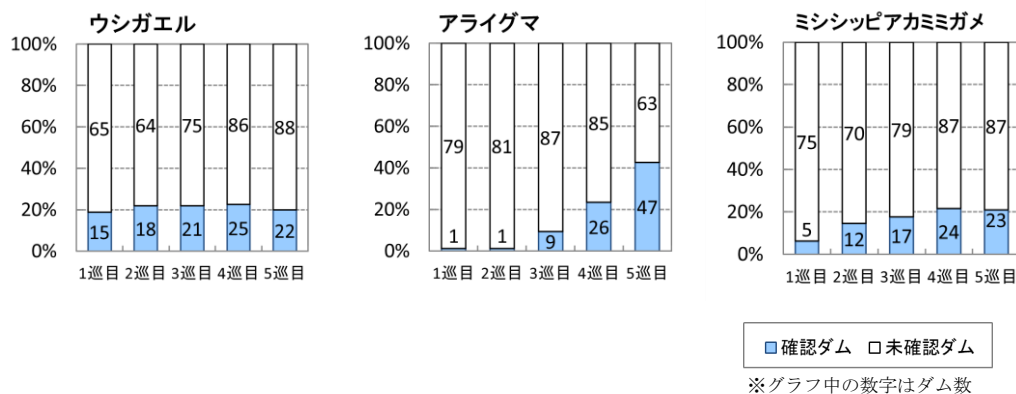


図 6-2 国外外来種の確認状況

各外来種の由来と在来種および農業への影響は、以下のとおりです。

ウシガエルはアメリカ合衆国の東部・中部およびカナダの南東部が原産で、日本には食料としての養殖を目的として導入されました。極めて捕食性が強く、旺盛な繁殖力を有しており、日本国内外において、ウシガエルの増加に伴う在来のカエルの減少が問題となっています。捕食や餌資源を巡る競争を通して、ほかのカエルをはじめ、多くの在来種への影響が懸念されています。

アライグマは北米原産で、日本には愛玩動物として展示・導入されました。その後、昭和 37 年（1962 年）に飼育個体が逸出し、愛知県から岐阜県へ生息域を拡大しました。その後日本各地で逸出や定着が確認され、現在までには全国で確認されています。森林や湿地帯から市街地まで様々な環境に生息し、雑食性のため農業被害とともに在来種への影響が危惧されています。

ミシシッピアカミミガメは米国原産で、愛玩用に輸入されたものの遺棄あるいは逸走が頻繁に生じているとみられ、たとえ再生産が少なくても、都市近郊の水辺には本亜種が高密度で見られています。令和 5 年（2023 年）6 月に条件付特定外来生物に指定されました。島嶼部も含め、ほぼ日本全国に分布しています。

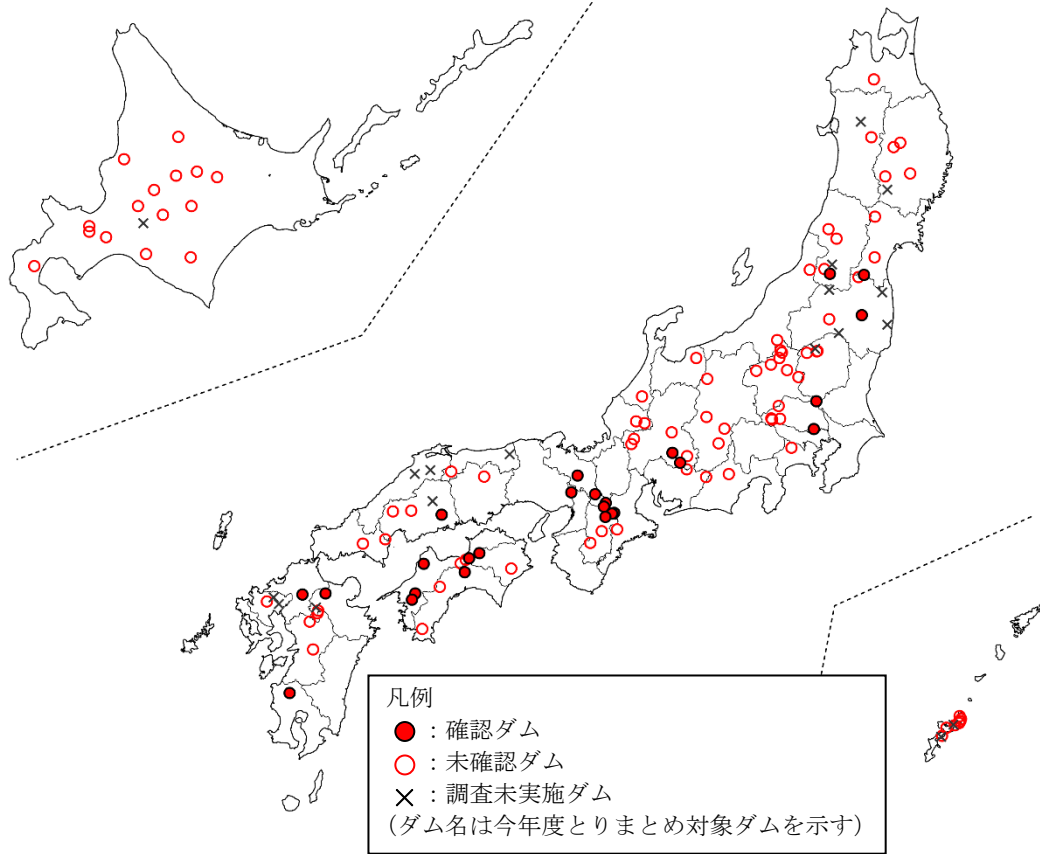
※特定外来生物とは、『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（2005 年（平成 17 年）6 月 1 日施行）』により、輸入や飼養等が規制される生物(生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれます)です。おおむね明治以降に国外から導入された国外外来種のうち、生態系、人の生命・身体及び農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがある生物が指定されています。令和 5 年（2023 年）6 月 1 日より、アカミミガメ (*Trachemys scripta*) 及びアメリカザリガニ (*Procambarus clarkii*) が通常の特定期間外来生物の規制の一部を適用除外とする「条件付特定外来生物(通称)」として追加されました。

参考文献：1) 日本生態学会編（2002）外来種ハンドブック, 地人書館  
2) (独) 国立環境研究所, 侵入生物データベース



図 6-3 令和 6 年度 (2024 年度) 調査対象ダムにおいて確認された国外外来種

4 巡目調査 (平成 18～27 年度 (2006～2015 年度))



5 巡目調査 (平成 28～令和 6 年度 (2016～2024 年度))

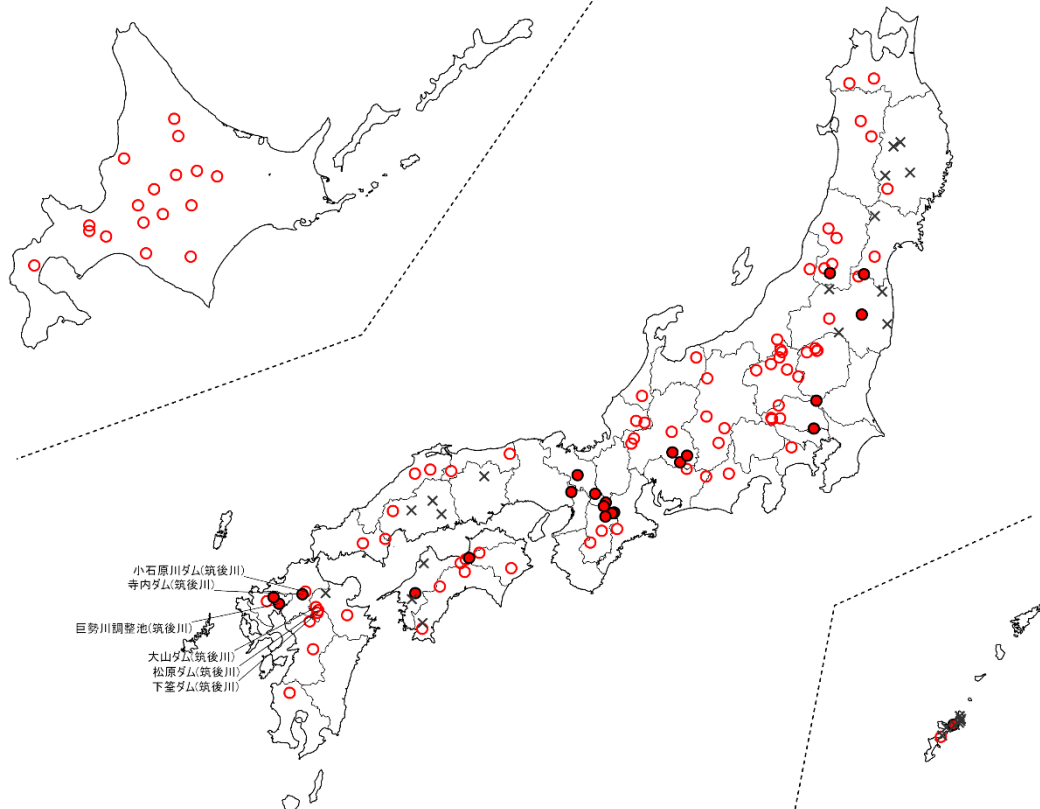
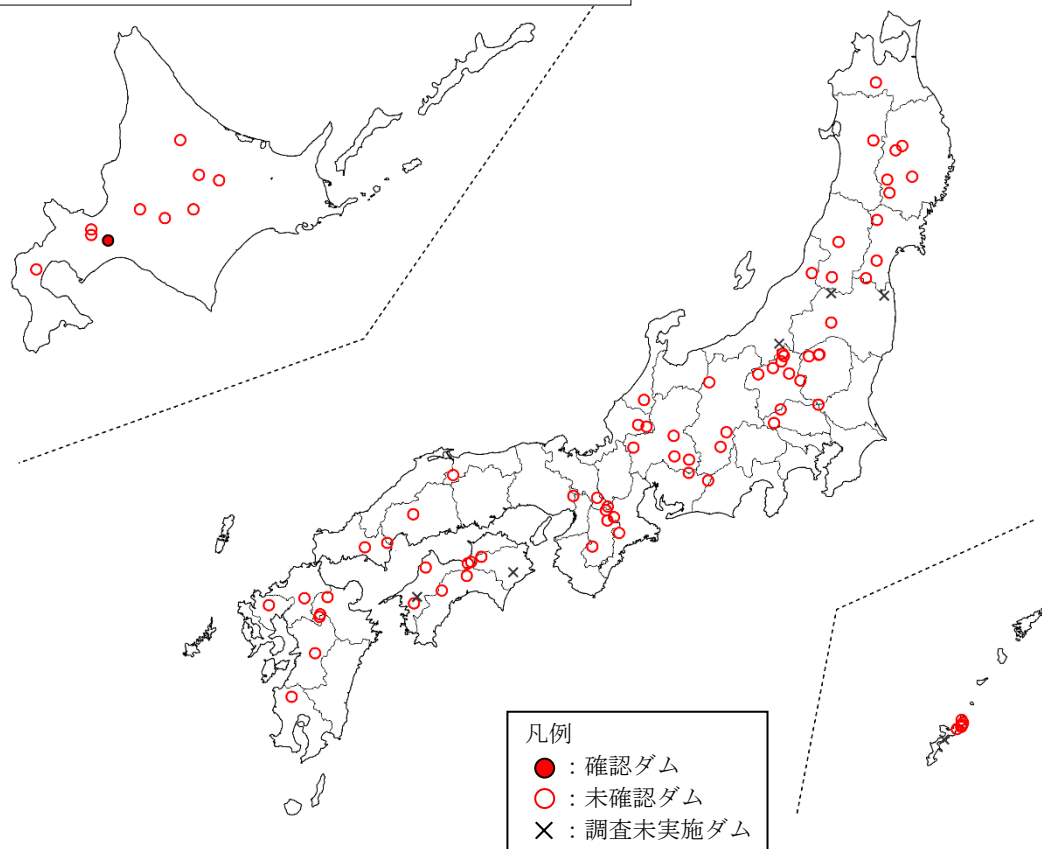


図 6-4 ウシガエル (特定外来生物) の確認状況 (4 巡目調査、5 巡目調査)

1 巡目調査 (平成 2~7 年度 (1990~1995 年度))



2 巡目調査 (平成 8~12 年度 (1996~2000 年度))

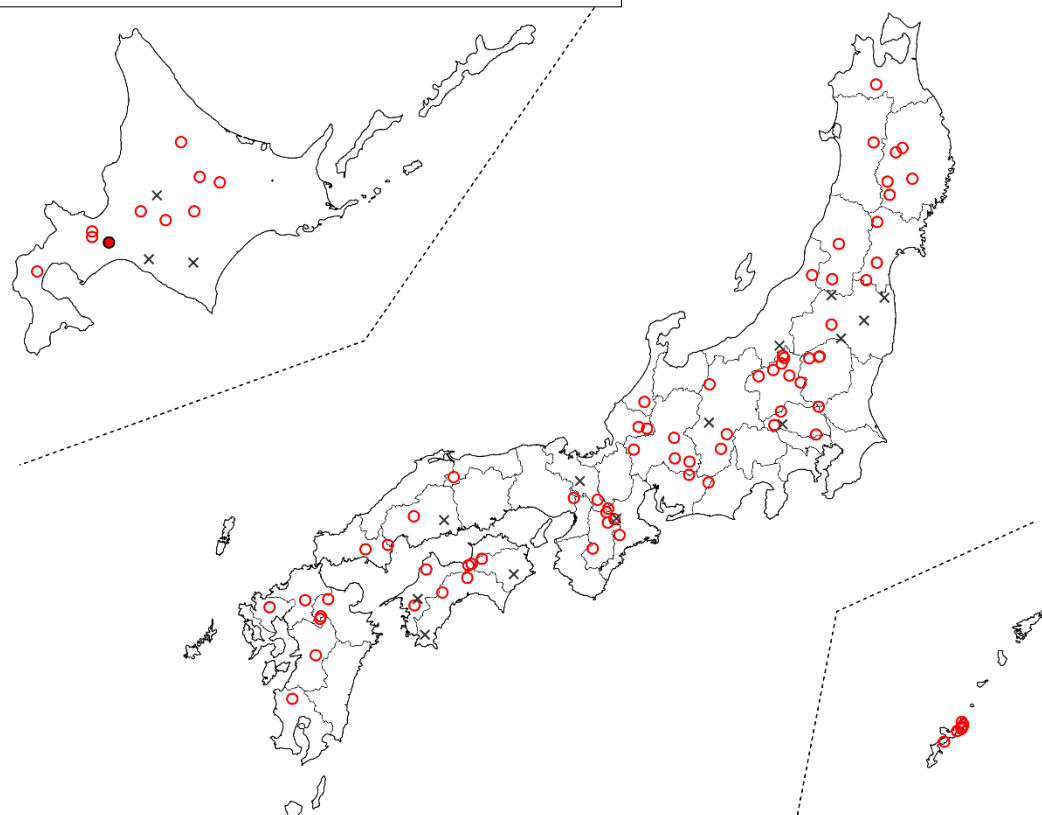
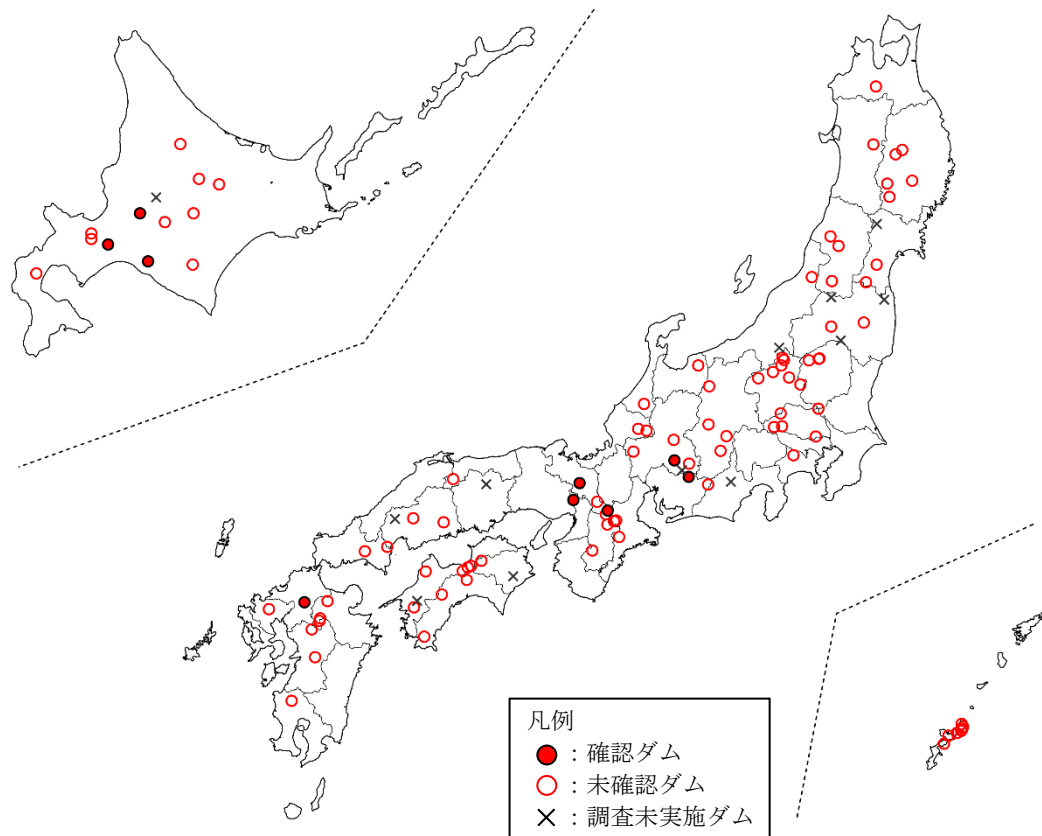


図 6-5 アライグマ (特定外来生物) の確認状況 (1 巡目調査、2 巡目調査) (1/3)

※アライグマは全国的に分布拡大している種であるため、過年度の確認状況もあわせて示した。

3 巡目調査 (平成 13～17 年度 (2001～2005 年度))



4 巡目調査 (平成 18～27 年度 (2006～2015 年度))

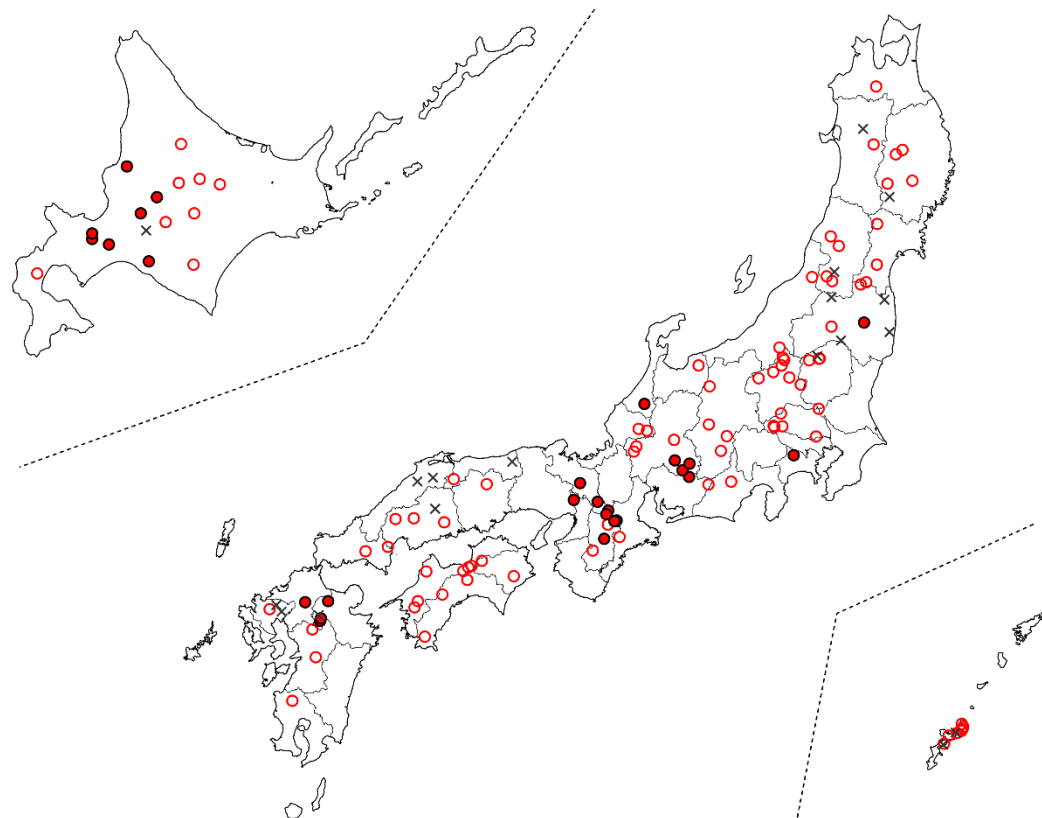


図 6-5 アライグマ (特定外来生物) の確認状況 (3 巡目調査、4 巡目調査) (2/3)  
※アライグマは全国的に分布拡大している種であるため、過年度の確認状況もあわせて示した。

5 巡目調査（平成 28～令和 6 年度（2016～2024 年度））

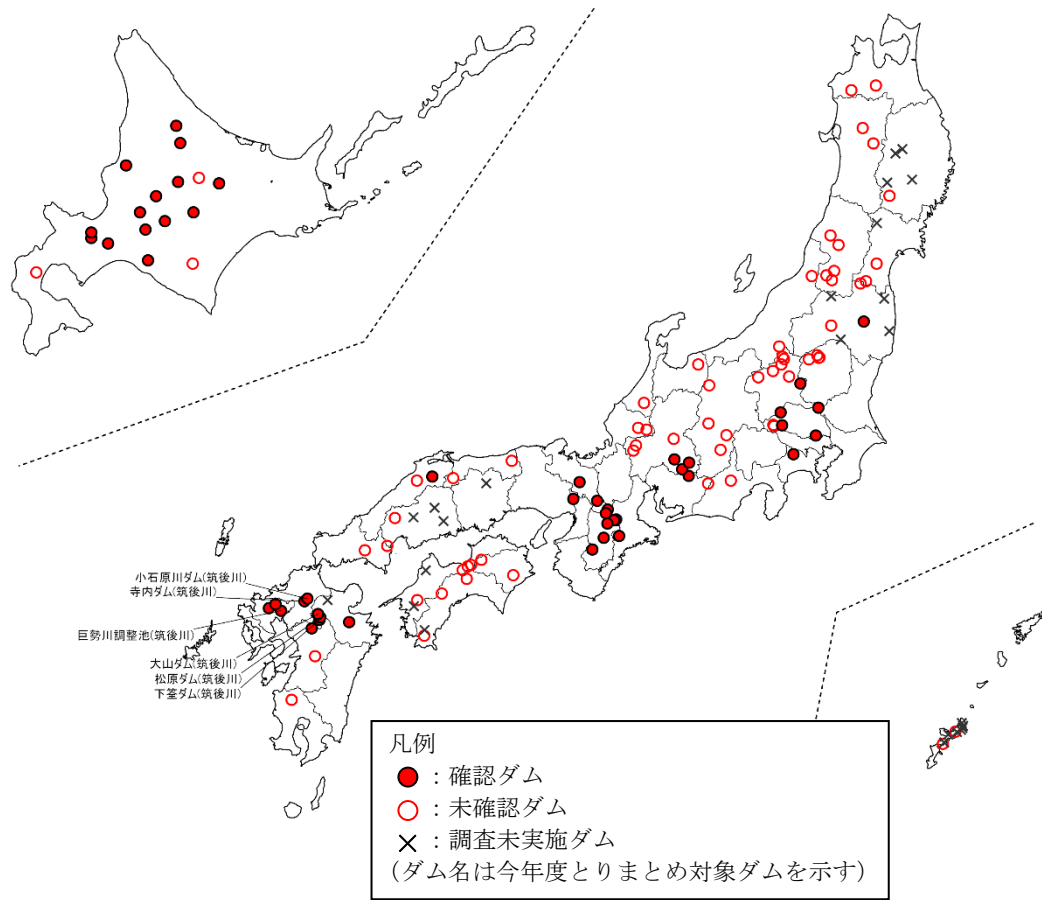
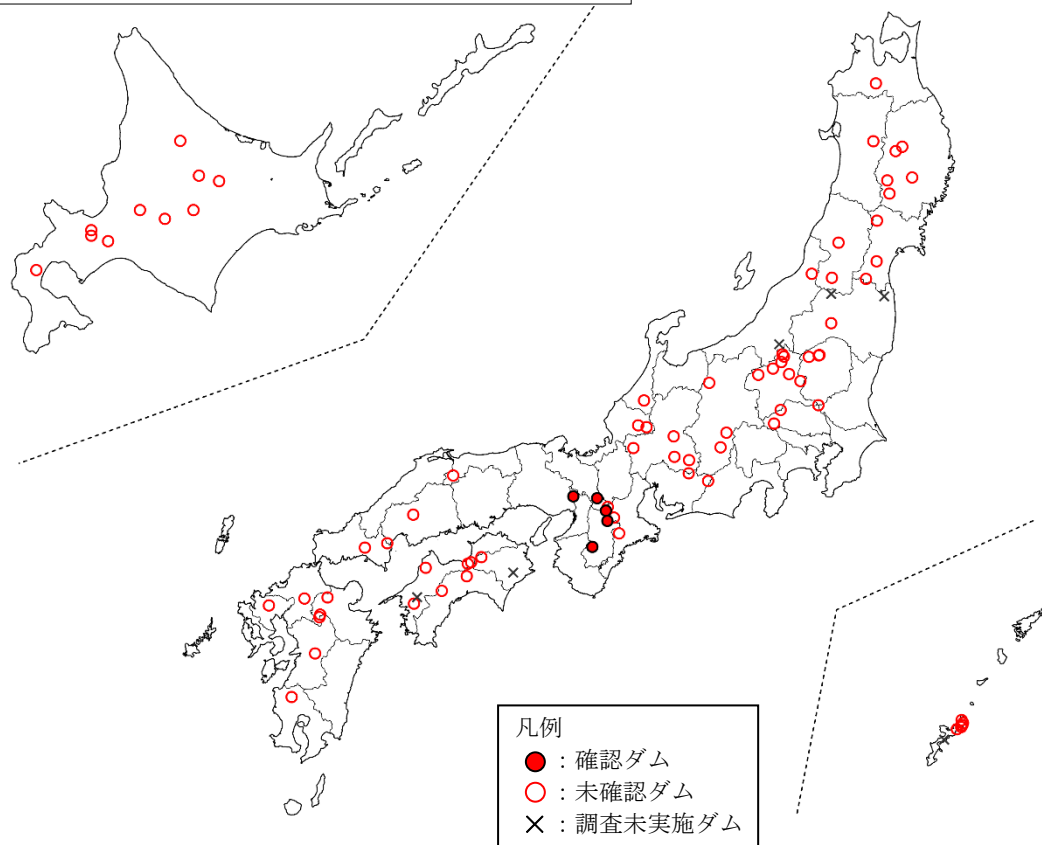


図 6-5 アライグマ（特定外来生物）の確認状況（5 巡目調査）（3/3）

※アライグマは全国的に分布拡大している種であるため、過年度の確認状況もあわせて示した。

1 巡目調査 (平成 2～7 年度 (1990～1995 年度))



2 巡目調査 (平成 8～12 年度 (1996～2000 年度))

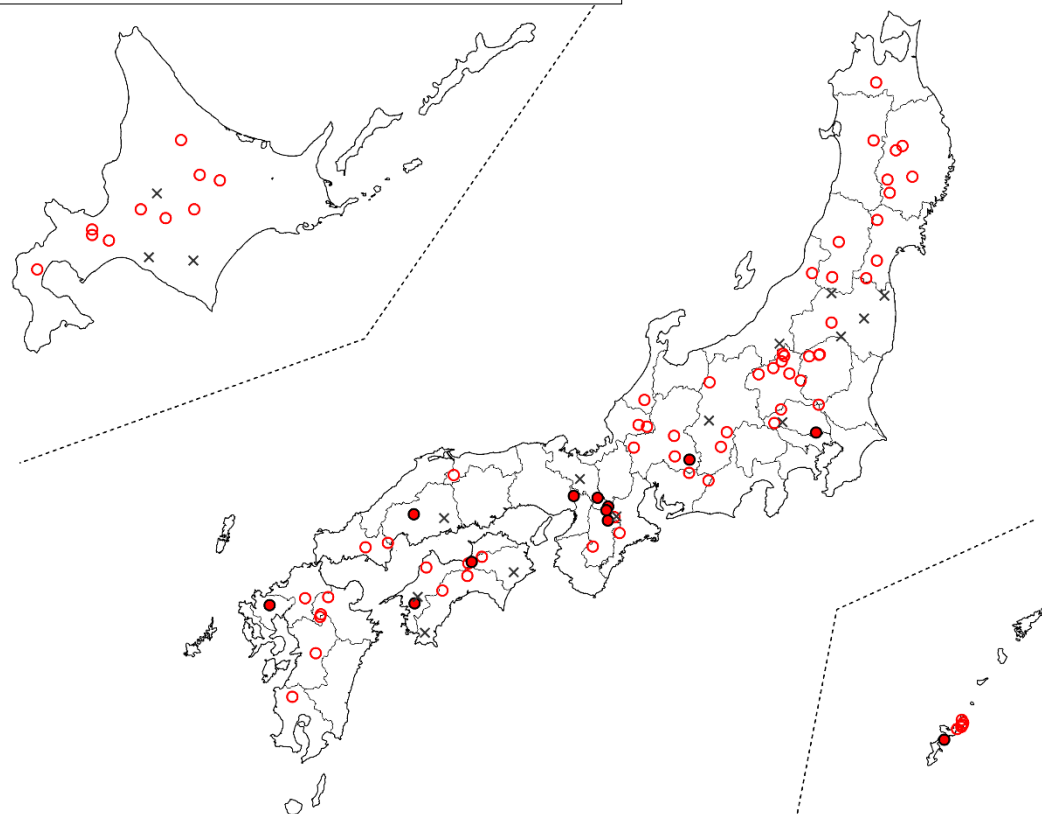
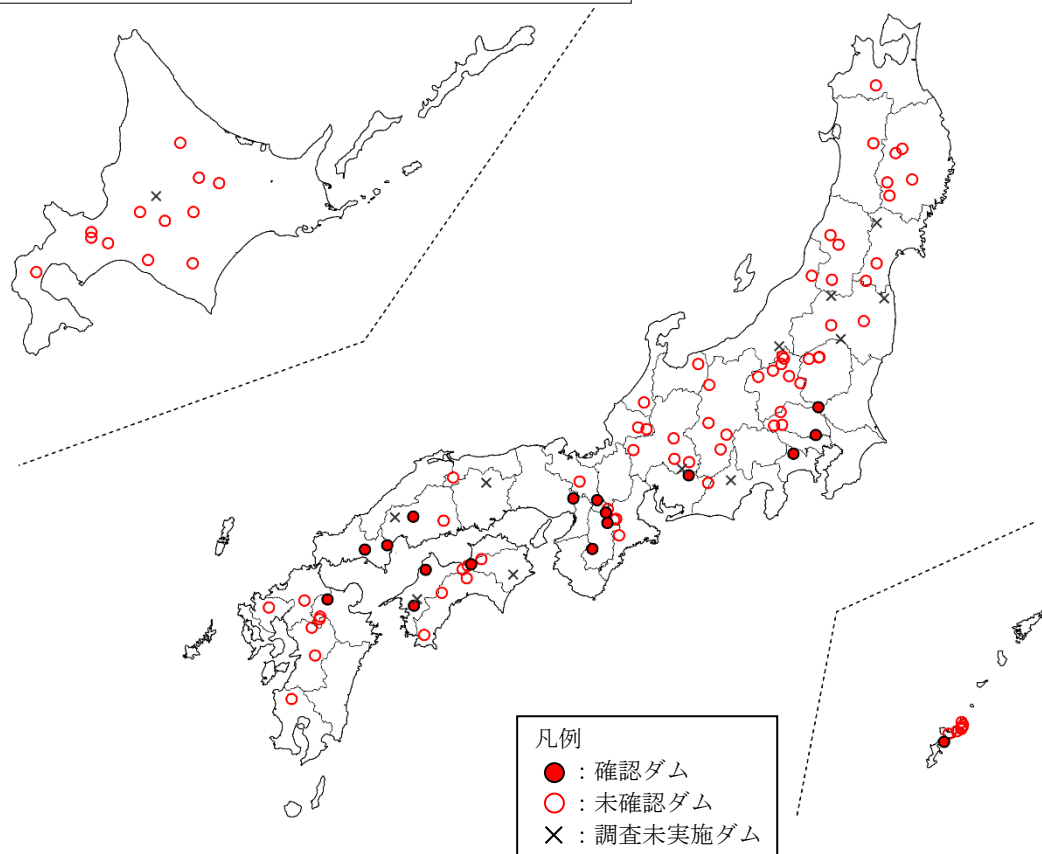


図 6-6 ミシシippアカミミガメ (条件付特定外来生物) の確認状況 (1 巡目調査、2 巡目調査) (1/3)

※ミシシippアカミミガメは全国的に分布拡大している種であるため、過年度の確認状況もあわせて示した。

3 巡目調査（平成 13～17 年度（2001～2005 年度））



4 巡目調査（平成 18～27 年度（2006～2015 年度））

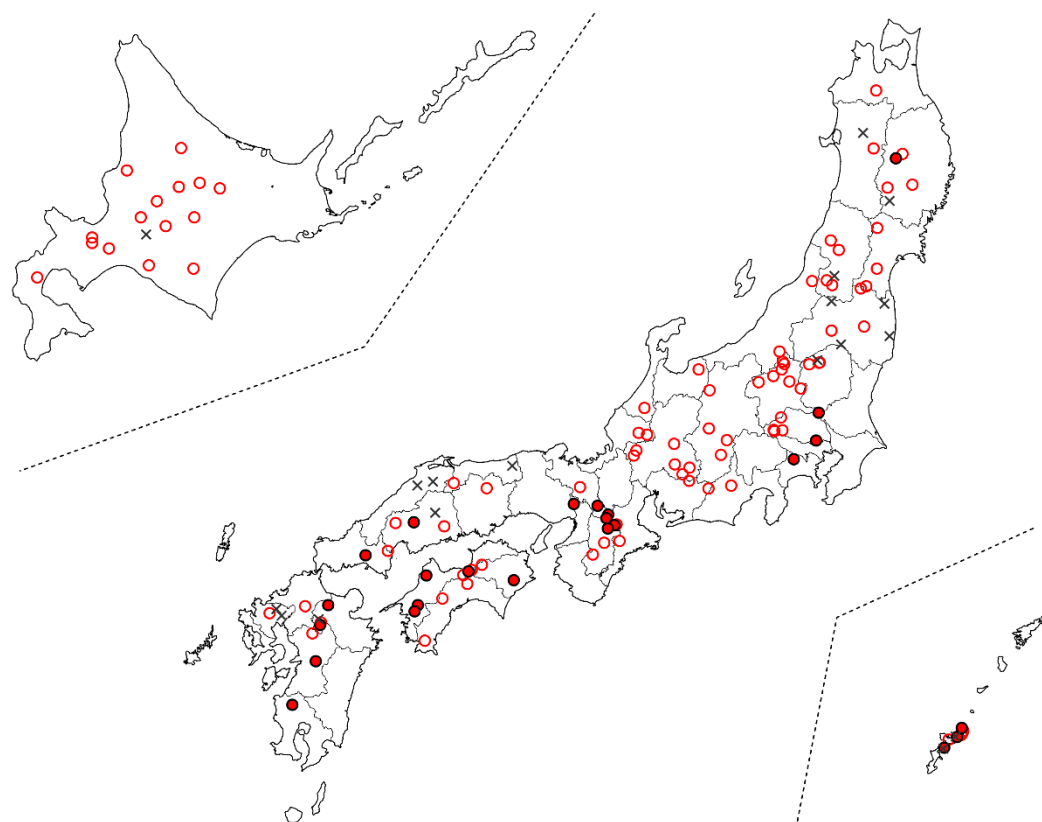


図 6-6 ミシシippアカミミガメ（条件付特定外来生物）の確認状況（3 巡目調査、4 巡目調査）（2/3）  
※ミシシippアカミミガメは全国的に分布拡大している種であるため、過年度の確認状況もあわせて示した。

5 巡目調査 (平成 28～令和 6 年度 (2016～2024 年度))

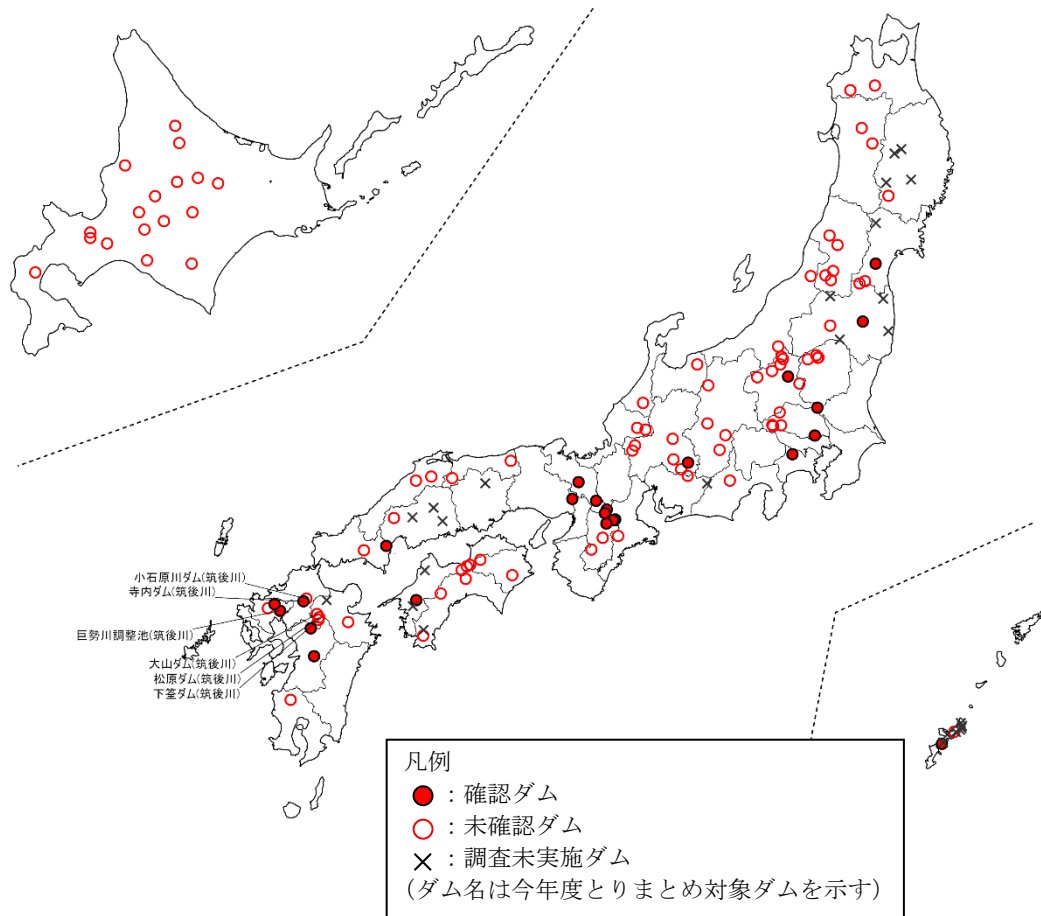


図 6-6 ミシシippアカミミガメ (条件付特定外来生物) の確認状況 (5 巡目調査) (3/3)

※ミシシippアカミミガメは全国的に分布拡大している種であるため、過年度の確認状況もあわせて示した。

(2) 国外外来種の分布状況（拡大傾向にある新たな国外外来種）

ここでは、近年特定外来生物に指定された種の拡大傾向の考察を目的として「オオサンショウウオ以外のオオサンショウウオ属、およびオオサンショウウオ属内の種間の交雑個体」の整理を行いました。なお、3巡目以前の調査については調査時期・調査手法等が異なることから、4巡目以降のデータを使用して考察を行いました。

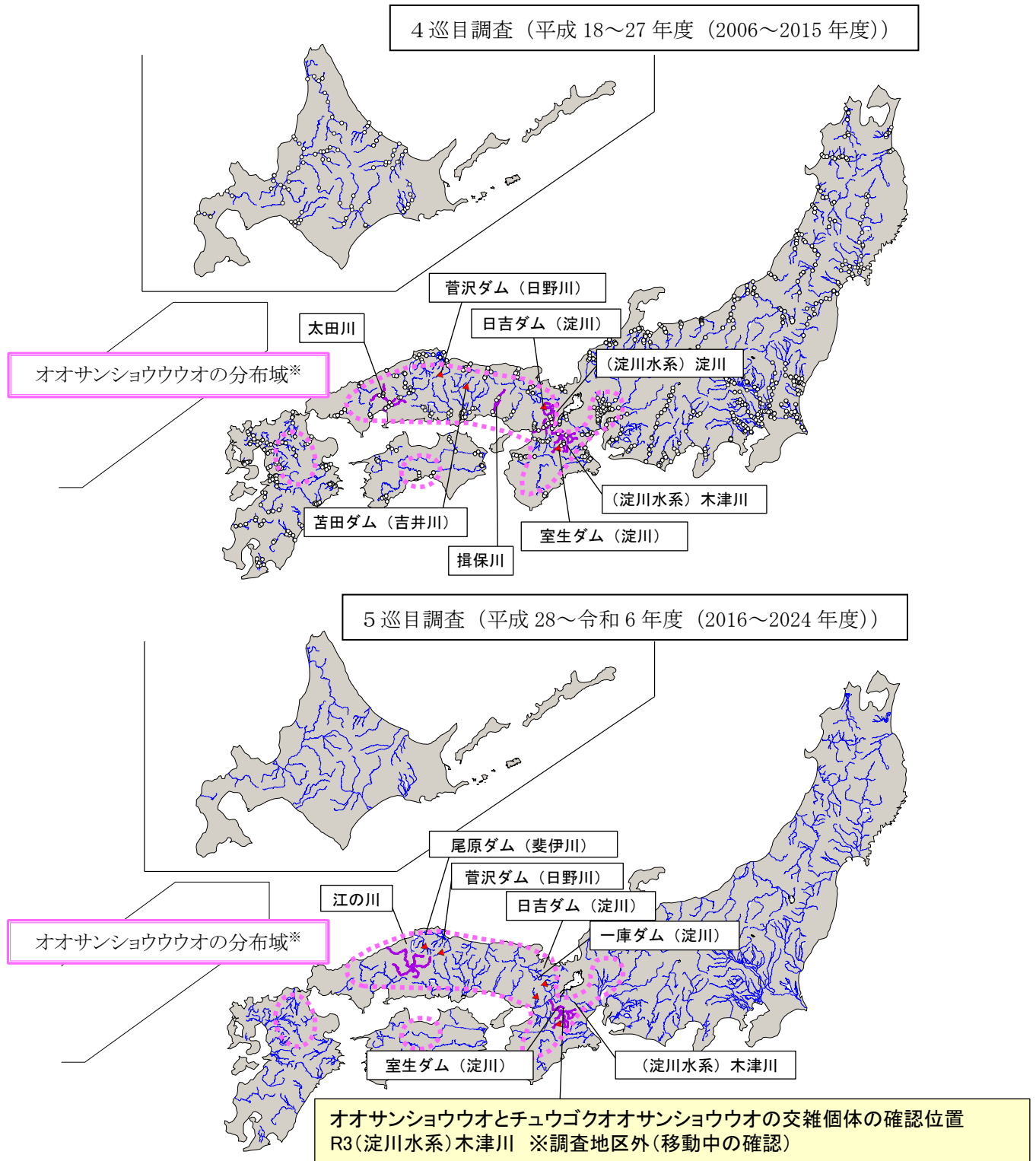
・オオサンショウウオとチュウゴクオオサンショウウオの交雑個体は1河川で確認

近年特定外来生物に追加された「オオサンショウウオ以外のオオサンショウウオ属、及びオオサンショウウオ属内の種間の交雑個体」の分布拡大の傾向を把握するため、4巡目以降の河川水辺の国勢調査（河川版、ダム湖版）でのオオサンショウウオ属の確認状況の変遷について整理しました。

オオサンショウウオ属はこれまでに近畿地方、中国地方の河川及びダムで確認されており、河川では淀川水系（淀川）、揖保川などの5河川、ダムでは菅沼ダム、苦田ダムなどの6ダムで確認されています。そのうち、特定外来生物と該当する個体として、「オオサンショウウオとチュウゴクオオサンショウウオの交雑個体」が近畿地方の淀川水系（木津川）の1河川のみで確認されています。

表 6-7 河川水辺の国勢調査におけるオオサンショウウオおよび交雑個体の確認状況

巡目	調査数		オオサンショウウオ		オオサンショウウオとチュウゴクオオサンショウウオの交雑個体	
	河川	ダム	河川	ダム	河川	ダム
4巡目調査	122	111	4	4	0	0
5巡目調査 (調査進行中)	113	110	2	5	1 (淀川水系 木津川)	0



※分布域は「日本オオサンショウウオの会 HP」(<https://www.giantsalamander.net/untitled-chtb>) を参照とした。  
分布域のうち、和歌山県の個体群は人為移入由来と考えられている。また、四国地方の個体群については、遺伝的特徴から人為移入の可能性はある。

図 6-7 これまでにオオサンショウウオおよび交雑個体が確認されたダム・河川  
(4 巡目調査、5 巡目調査)

外来生物法により特定外来生物として指定されているオオサンショウウオ以外のオオサンショウウオ属、およびオオサンショウウオ属内の種間の交雑個体の確認状況を整理しました。

チュウゴクオオサンショウウオは、昭和 47 年（1972 年）に中国から食用として大量に輸入されたことが知られています。その後、産業には利用されなくなり、逃げ出して野生化したと考えられます。現在では、京都市鴨川水系および上桂川、三重県名張市、奈良県宇陀市でチュウゴクオオサンショウウオとオオサンショウウオの交雑個体が確認されており、交雑個体のほか、さらに第 2 世代（交雑個体同士や戻し交雑個体）も増加している報告があります。

オオサンショウウオ以外のオオサンショウウオ属、およびオオサンショウウオ属内の種間の交雑個体は、令和 6 年（2024 年）7 月に特定外来生物に指定されました。これまでの河川水辺の国勢調査では、チュウゴクオオサンショウウオは確認されていません。またオオサンショウウオとチュウゴクオオサンショウウオの交雑個体は、4 巡目調査以降に近畿地方の淀川水系（木津川）の 1 河川のみで確認されていることから、本種は各地で定着していないと考えられます。ただし、外来オオサンショウウオ属が問題視され、DNA 調査による個体判別が積極的に行われるようになったのは近年になってからであり、過去のオオサンショウウオとされた個体についても、DNA 調査等による個体判別は必ずしもできていないと考えられることから、確認記録にオオサンショウウオ以外のオオサンショウウオ属、および交雑個体が含まれている可能性があります。

特定外来生物に指定されたことで、今後も生息状況に留意が必要と考えられます。

### 6.3 注目すべき種の分布状況

#### (1) 農林業とかかわりが大きい哺乳類（サル、クマ、シカ、イノシシ）の確認状況

- ・ダム湖周辺で、農林業やダム湖周辺の植生に影響を及ぼす大型哺乳類（ニホンザル、ニホンジカ、イノシシ）を継続して確認
- ・4巡目、5巡目でニホンジカ、イノシシ（ニホンイノシシ）の生息が確認されたダムでは、ほとんどのダムで4巡目調査より確認地区数が増加

表 6-8 農林業とかかわりが大きい哺乳類の確認ダム数の巡目比較

種名	1巡目調査 (80ダム)	2巡目調査 (82ダム)	3巡目調査 (96ダム)	4巡目調査 (111ダム)	5巡目調査 (110ダム)	今回 確認
ニホンザル	38/65ダム [58.5%]	38/66ダム [57.6%]	49/77ダム [63.6%]	59/89ダム [66.3%]	65/91ダム [71.4%]	○
ヒグマ	8/10ダム [80.0%]	9/10ダム [90.0%]	11/12ダム [91.7%]	15/15ダム [100.0%]	17/17ダム [100.0%]	
ツキノワグマ	22/65ダム [33.8%]	27/66ダム [40.9%]	34/77ダム [44.2%]	44/89ダム [49.4%]	48/91ダム [52.7%]	
ニホンジカ	29/75ダム [38.7%]	36/76ダム [47.4%]	48/89ダム [53.9%]	81/104ダム [77.9%]	91/108ダム [84.3%]	○
イノシシ (ニホンイノシシ)	33/65ダム [50.8%]	42/66ダム [63.6%]	51/77ダム [66.2%]	72/89ダム [80.9%]	79/91ダム [86.8%]	○
イノシシ (リュウキュウイノシシ)	5/5ダム [100.0%]	6/6ダム [100.0%]	7/7ダム [100.0%]	7/7ダム [100.0%]	2/2ダム [100.0%]	

注1) ( )内は各巡目において調査を実施しているダムの数を示す。巡目の途中から調査を行っていたり、途中の年度を調査していないダムがあるため、巡目毎の調査ダム数は同じではない。

注2) [ ]内は確認ダム数の対象ダム数に対する%を示す。

注3) ニホンザルの対象ダムは本州・四国・九州、ヒグマの対象ダムは北海道、ツキノワグマの対象ダムは本州・四国・九州、ニホンジカの対象ダムは北海道・本州・四国・九州、イノシシ（ニホンイノシシ）の対象ダムは本州・四国・九州、イノシシ（リュウキュウイノシシ）の対象ダムは沖縄のみである。

ダム周辺の自然環境の指標となる大型哺乳類のうち、近年生息域が拡大し、農業被害が深刻化している、ニホンザル、ヒグマ、ツキノワグマ、ニホンジカ、イノシシの確認状況を整理しました。

ニホンザルは、今回とりまとめ対象とした6ダムのうち、九州の下笠ダム、寺内ダムの2ダムで確認されました。寺内ダムでは初めての確認となっています。

ニホンジカは、今回とりまとめ対象とした6ダムのうち、九州の下笠ダム、松原ダム、大山ダム、寺内ダム、小石原川ダムの5ダムで確認されました。大山ダムと小石原川ダムでは初めての確認となっています。

イノシシ（ニホンイノシシ）は、今回とりまとめ対象とした6ダムのうち、九州の下笠ダム、松原ダム、大山ダム、寺内ダム、小石原川ダムの5ダムで確認されました。大山ダムと小石原川ダムでは初めての確認となっています。

ニホンザルは、本州、四国、九州に分布する日本の固有種です。常緑広葉樹林、落葉広葉樹林に生息し、雑食性で果実、種子、昆虫等を食べます。農作物の食害は、野菜や果実の一部のみを摂食して散乱させるため、大きな問題となっています。

ニホンジカは、北海道、本州、四国、九州、屋久島や慶良間列島などの島々に分布しています。イネ科草本、木の葉、堅果、ササ類等を採食し、近年は個体数の増加に伴って農作物の食害や、植林木の樹皮剥ぎ等農林業への被害や森林生態系への影響が問題となっています。

イノシシには亜種ニホンイノシシ、リュウキュウイノシシがいます。ニホンイノシシは本州、四国、九州に分布しています。里山の二次林、低山帯と隣接する水田、農耕地、平野部にも広く分布し、雑食性で、地表から地中にかけての各種の植物と動物を掘り返して採食したり、水田を泥浴びするためのヌタ場として利用したりします。このため農作物の食害や稲の倒覆等の被害、畦や河川敷の掘り返し等も問題となっています。リュウキュウイノシシは、ニホンイノシシより小型で、沖縄、奄美大島等に分布しています。

ダム湖周辺での農林業とかかわりが大きい哺乳類の確認状況としては、確認割合が増加傾向にある種が多く、今後も継続して分布状況を把握していく必要があります。

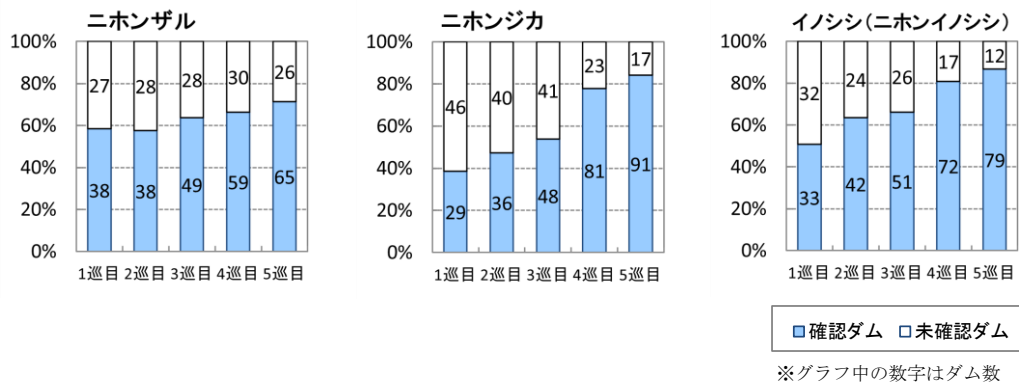


図 6-8 農林業とかかわりが大きい哺乳類の確認状況

令和6年度（2024年度）に調査を実施した6ダムについて、3・4巡目と5巡目のニホンジカ、イノシシ（ニホンイノシシ）の確認地区割合について比較しました。これは、それぞれの種が各ダムの全調査地区に対してどの程度の割合で確認されたかを示したものです。

ニホンジカは今回とりまとめ対象とした6ダムのうち九州の下笠ダム、松原ダム、大山ダム、寺内ダム、小石原川ダムの5ダムで確認されました。九州の寺内ダムでは4巡目と比べて確認地区割合が減少しました。一方で九州の下笠ダム、松原ダムでは全調査地区で確認され、4巡目から5巡目にかけて確認地区割合が大きく増加しました。これらのダムではニホンジカの分布が拡大していると考えられます。九州の大山ダム、小石原川ダムは今回が初めての調査ですが、いずれのダムにおいても確認地区割合が高く、調査範囲内に広く分布していると考えられます。

イノシシ（ニホンイノシシ）は今回とりまとめ対象とした6ダムのうち九州の下笠ダム、松原ダム、大山ダム、寺内ダム、小石原川ダムの5ダムで確認されました。九州の下笠ダム、松原ダム、寺内ダムでは4巡目でも全調査地区かそれに近い多くの調査地区で確認されており、調査範囲内に広く分布していると考えられます。九州の大山ダム、小石原川ダムは今回が初めての調査ですが、小石原川ダムでは確認地区割合が高く、調査範囲内に広く分布していると考えられます。大山ダムでは確認地区割合は50%未満となっていました。

なお、シカについては、農林業への被害のほか、森林植生への食害の影響が全国的に確認されています。シカが増加すると、立木の皮を食べて樹木を枯らしてしまうほか、森林の地表面（林床）の植生を食べることにより、シカの好まない植物のみが繁茂するなど植生が単純化したり、表土を覆う植物自体が減少したりします。このような状態になると、生態系への影響や植生変化による表土の流出が懸念されます。流出した土砂は河川やダム湖へ流入し、治水・利水というダムの機能にも影響を与える可能性があります。

表 6-9 令和6年度（2024年度）調査対象ダムのニホンジカ  
およびイノシシ（ニホンイノシシ）の確認地区割合

ニホンジカ					イノシシ(ニホンイノシシ)				
地方	ダム名	確認地区割合 (%)			地方	ダム名	確認地区割合 (%)		
		3巡目	4巡目	5巡目			3巡目	4巡目	5巡目
九州	下笠ダム	0.0%	70.0%	100.0%	九州	下笠ダム	100.0%	100.0%	100.0%
	松原ダム	0.0%	57.1%	100.0%		松原ダム	100.0%	85.7%	100.0%
	大山ダム	-	-	81.8%		大山ダム	-	-	45.5%
	寺内ダム	66.7%	100.0%	81.8%		寺内ダム	100.0%	90.0%	90.9%
	小石原川ダム	-	-	100.0%		小石原川ダム	-	-	87.5%
	巨勢川調整池	-	-	0.0%		巨勢川調整池	-	-	0.0%

【凡例】 - : 未調査

■ : 前回調査時より確認地区割合が増加又は100%

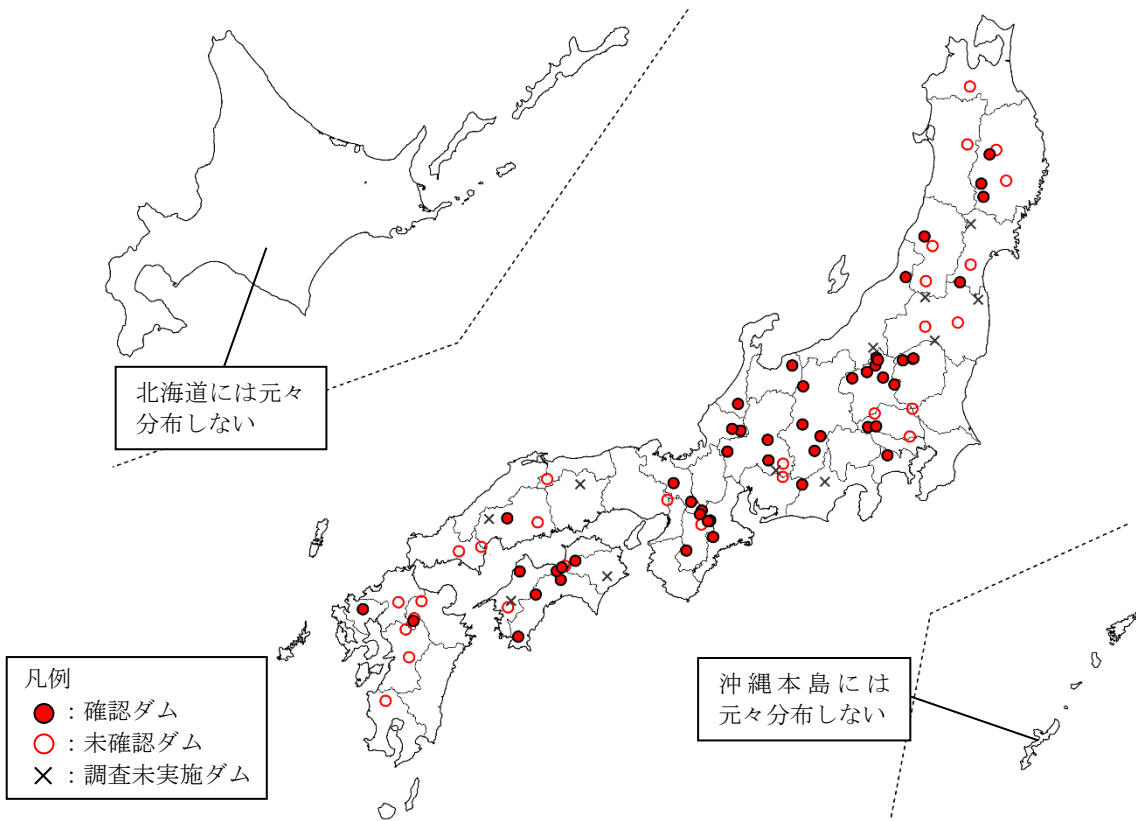
■ : 前回調査時より確認地区割合が減少又は0%

注) 確認地区割合=確認地区/全調査地区数として算出。3、4、5巡目の調査地区の位置、数は同じではない。



図 6-9 令和 6 年度 (2024 年度) 調査対象ダムにおいて確認された  
農林業とかかわりが大きい哺乳類

3 巡目調査（平成 13～17 年度（2001～2005 年度））



4 巡目調査（平成 18～27 年度（2006～2015 年度））

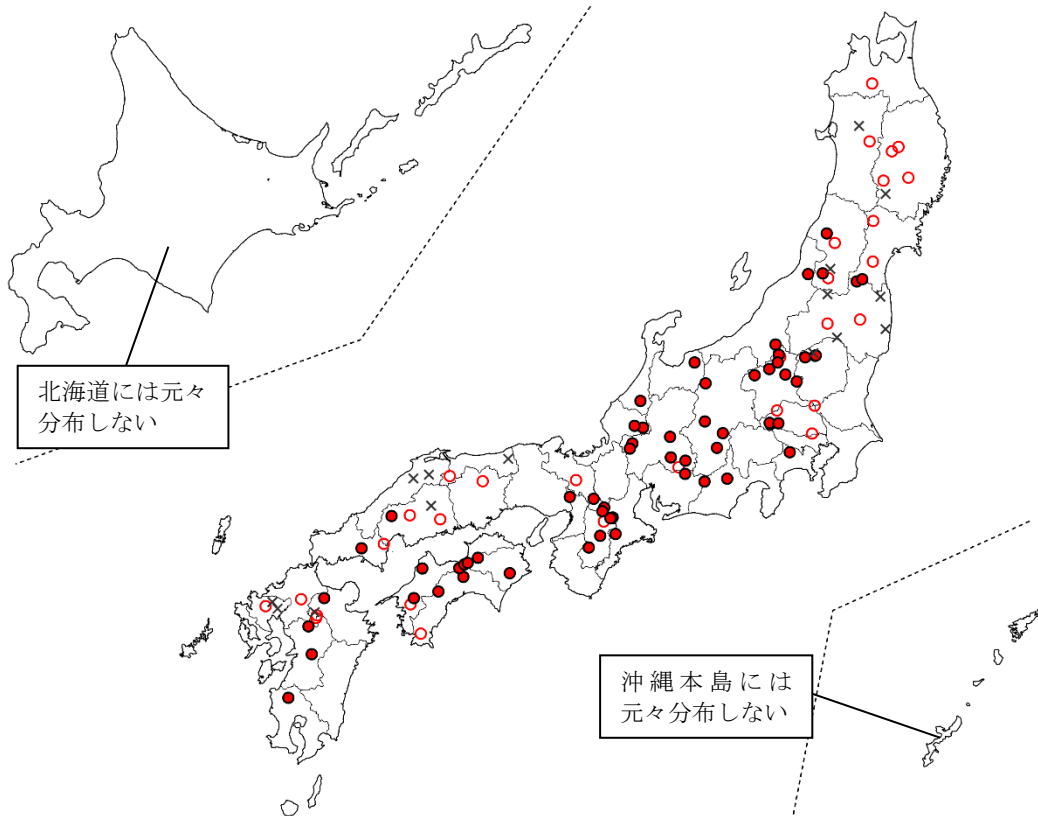


図 6-10 ニホンザルの確認状況（3 巡目調査、4 巡目調査）（1/2）

5 巡目調査（平成 28～令和 6 年度（2016～2024 年度））

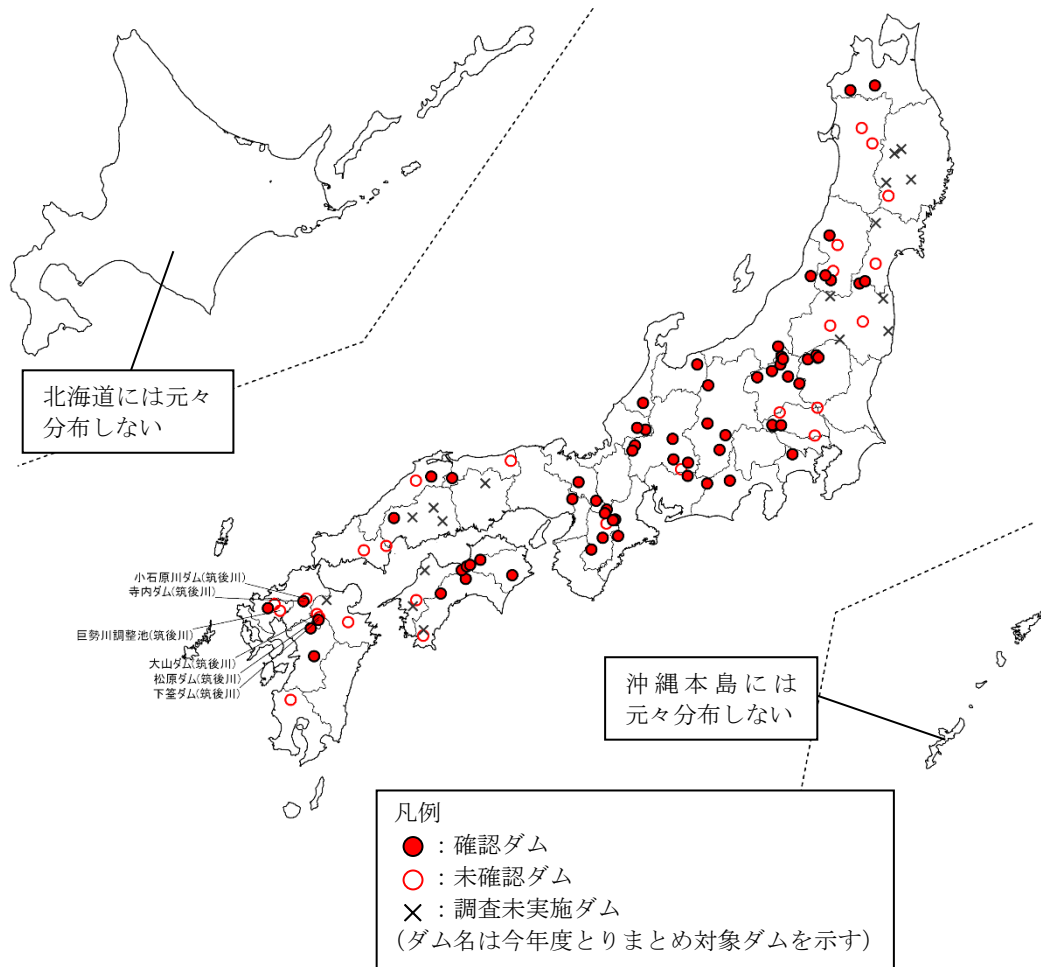
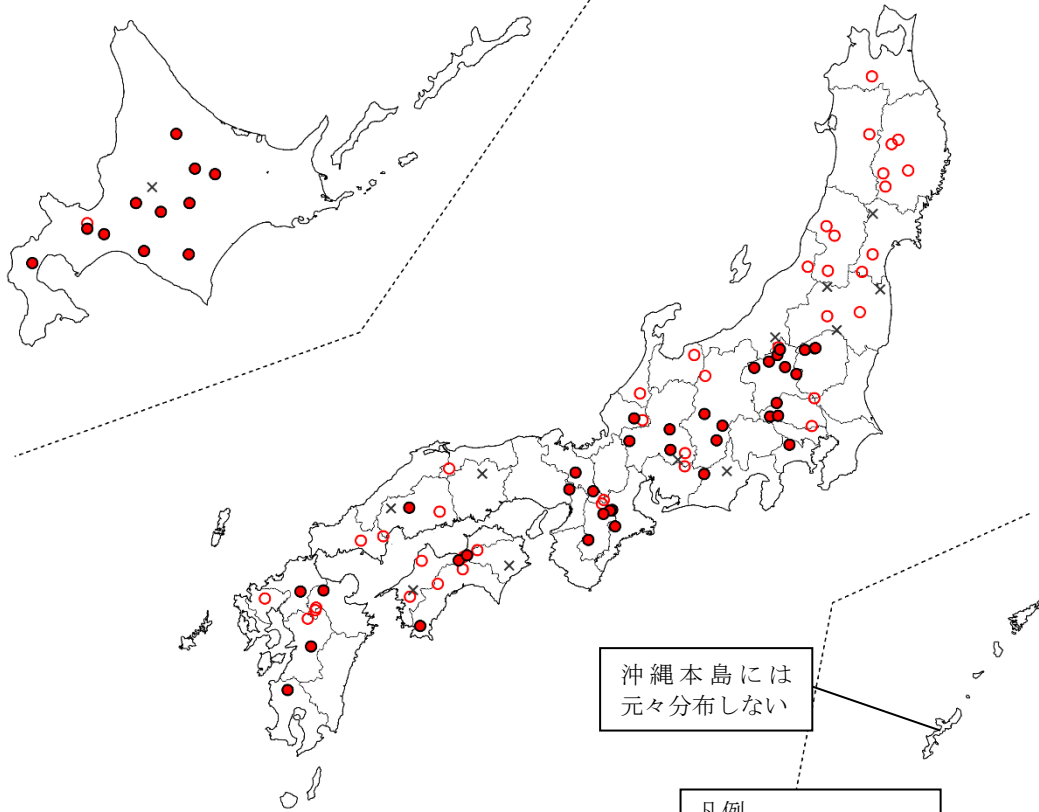


図 6-10 ニホンザルの確認状況（5 巡目調査）（2/2）

3 巡目調査 (平成 13～17 年度 (2001～2005 年度))



4 巡目調査 (平成 18～27 年度 (2006～2015 年度))

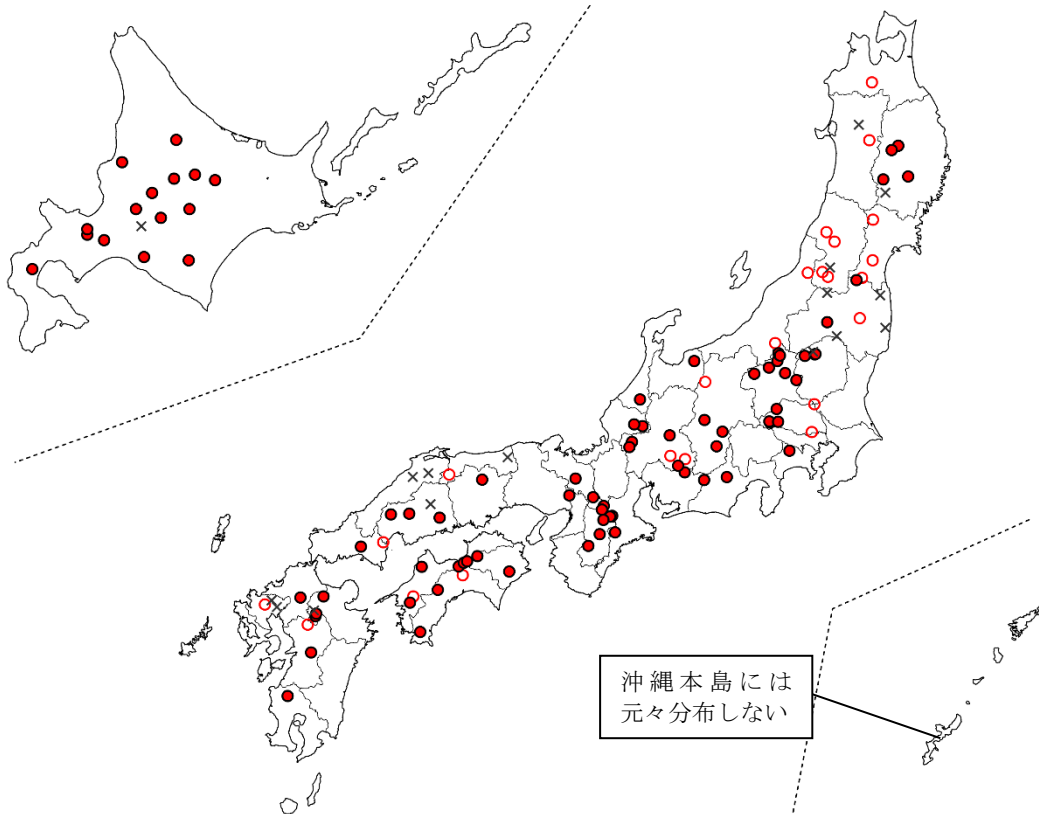


図 6-11 ニホンジカの確認状況 (3 巡目調査、4 巡目調査) (1/2)

5 巡目調査 (平成 28～令和 6 年度 (2016～2024 年度))

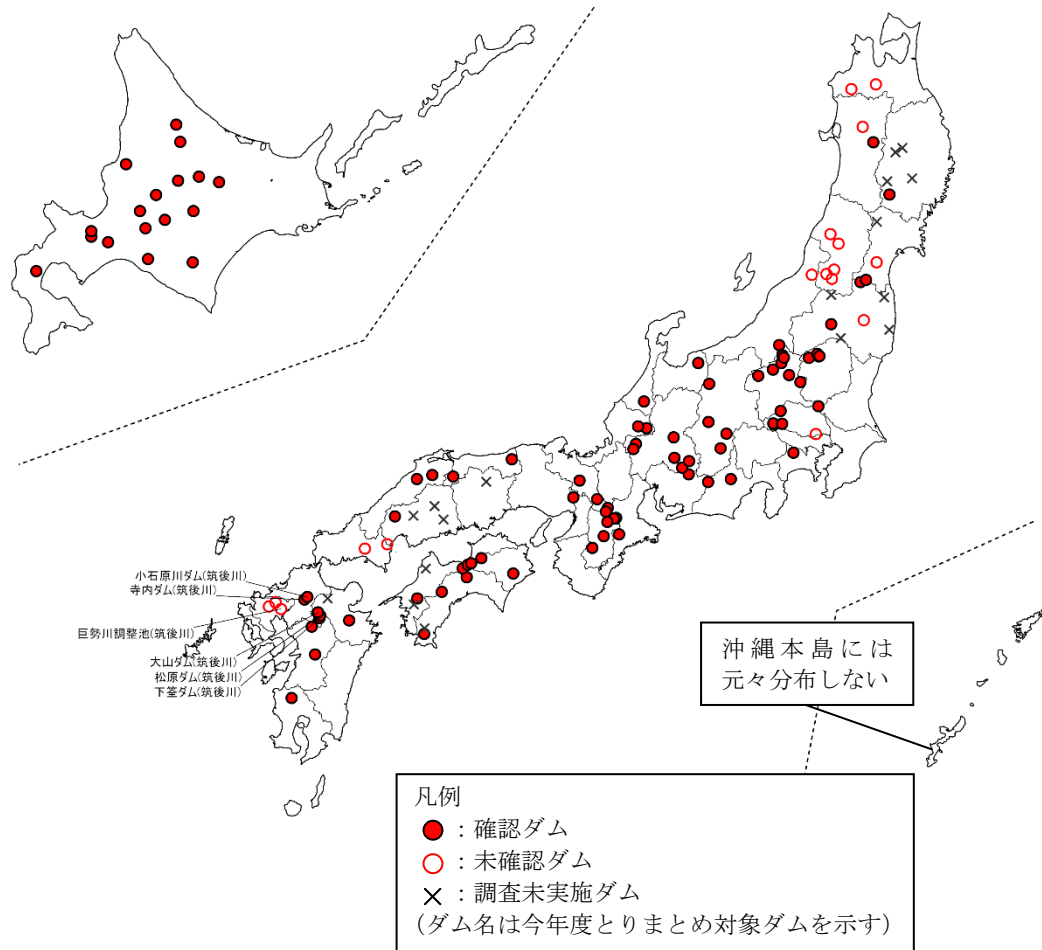
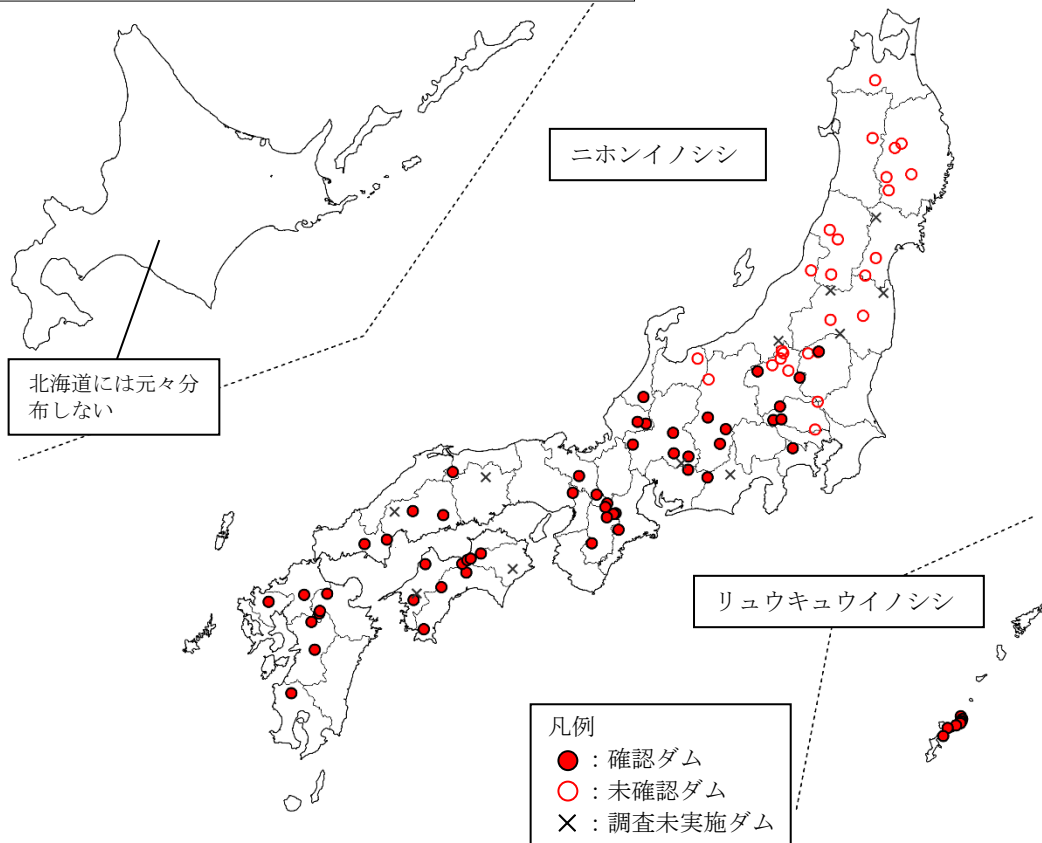


図 6-11 ニホンジカの確認状況 (5 巡目調査) (2/2)

3 巡目調査 (平成 13～17 年度 (2001～2005 年度))



4 巡目調査 (平成 18～27 年度 (2006～2015 年度))

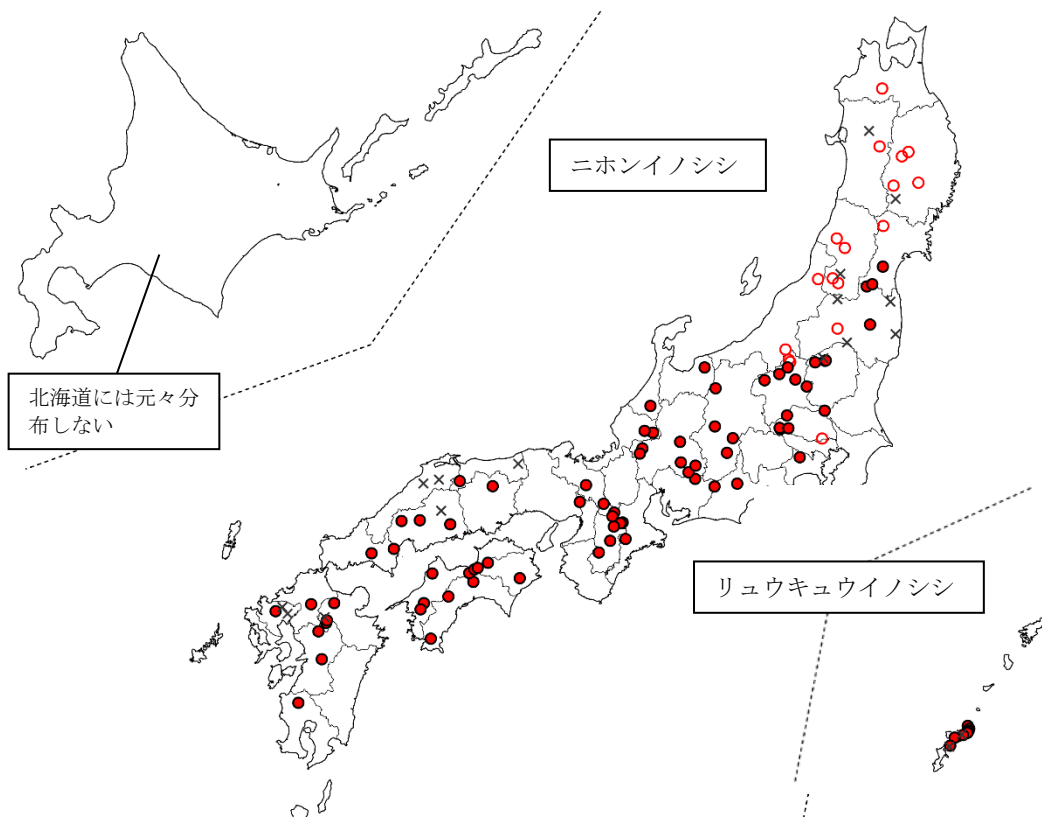


図 6-12 イノシシ (ニホンイノシシ、リュウキュウイノシシ) の確認状況 (3 巡目調査、4 巡目調査) (1/2)

5 巡目調査（平成 28～令和 6 年度（2016～2024 年度））

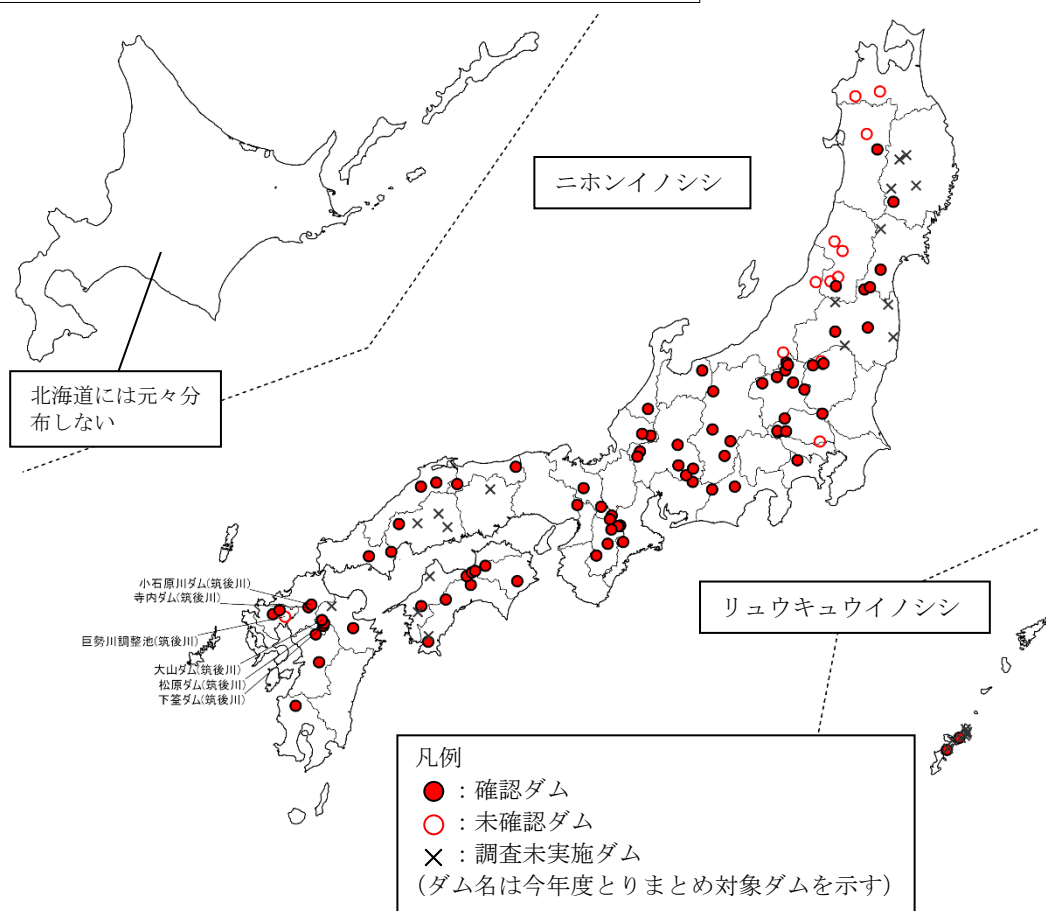


図 6-12 イノシシ（ニホンイノシシ、リュウキュウイノシシ）の確認状況（5 巡目調査）（2/2）

(2) カメ目（ミシシippアカミミガメ、クサガメ、ニホンイシガメ、ニホンスッポン）の分布状況

・九州の下笠ダム、松原ダム、大山ダム、小石原川ダムではカメ目が確認されませんでした。  
 近年確認数が減少傾向にあるカメ目について、確認状況を整理しました。今回とりまとめを行った6ダムのうち、ミシシippアカミミガメは九州の寺内ダム、巨勢川調整池の2ダムで、クサガメは九州の巨勢川調整池で確認されました。

表 6-10 カメ目の確認ダム数の巡目比較

種名	1巡目調査 (80ダム)	2巡目調査 (82ダム)	3巡目調査 (96ダム)	4巡目調査 (111ダム)	5巡目調査 (110ダム)	今回 確認
ミシシippアカミミガメ	5/80ダム [6.3%]	12/82ダム [14.6%]	17/96ダム [17.7%]	24/111ダム [21.6%]	23/110ダム [20.9%]	○
クサガメ	8/80ダム [10.0%]	10/82ダム [12.2%]	9/96ダム [9.4%]	18/111ダム [16.2%]	16/110ダム [14.5%]	○
ニホンイシガメ	15/65ダム [23.1%]	13/66ダム [19.7%]	11/77ダム [14.3%]	23/89ダム [25.8%]	23/91ダム [25.3%]	
ニホンスッポン	3/75ダム [4.0%]	3/76ダム [3.9%]	7/89ダム [7.9%]	10/104ダム [9.6%]	11/108ダム [10.2%]	

注1) ( )内は各巡目において調査を実施しているダムの数を示す。巡目の途中から調査を行っていたり、途中の年度を調査していないダムがあるため、巡目毎の調査ダム数は同じではない。  
 注2) [ ]内は確認ダム数の対象ダム数に対する%を示す。なお、ニホンイシガメの対象ダムについては、北海道、沖縄を含まない。また、ニホンスッポンの対象ダムについては、人為的な分布である沖縄を含まない。  
 注3) 生態系被害防止外来種リストには、亜種ミシシippアカミミガメを含む種アカミミガメが掲載されている。

今回とりまとめを行った6ダムでは、カメ目のうち、ミシシippアカミミガメ、クサガメ、の2種が確認されました。

ミシシippアカミミガメは、今回とりまとめを行った6ダム中、九州の寺内ダム、巨勢川調整池の2ダムで確認されました。寺内ダムと巨勢川調整池では初めての確認となっています。

クサガメは、今回とりまとめを行った6ダム中、九州の巨勢川調整池の1ダムで確認されました。巨勢川調整池では初めての確認となっています。

ダム湖周辺でのカメ目の確認状況としては、ミシシippアカミミガメおよびクサガメは増加傾向がみられました。ミシシippアカミミガメやクサガメの増加により日本在来のニホンイシガメへの影響が懸念されているため、今後も継続して分布状況を把握していく必要があります。

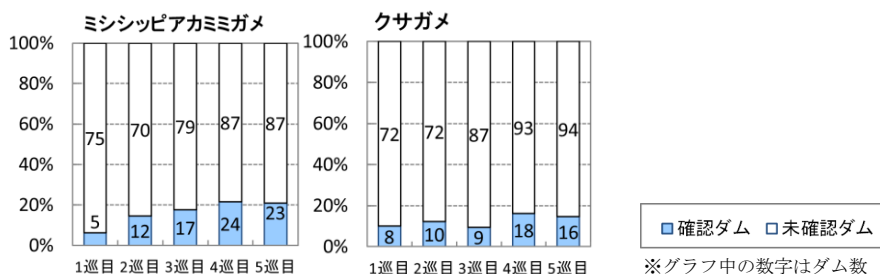
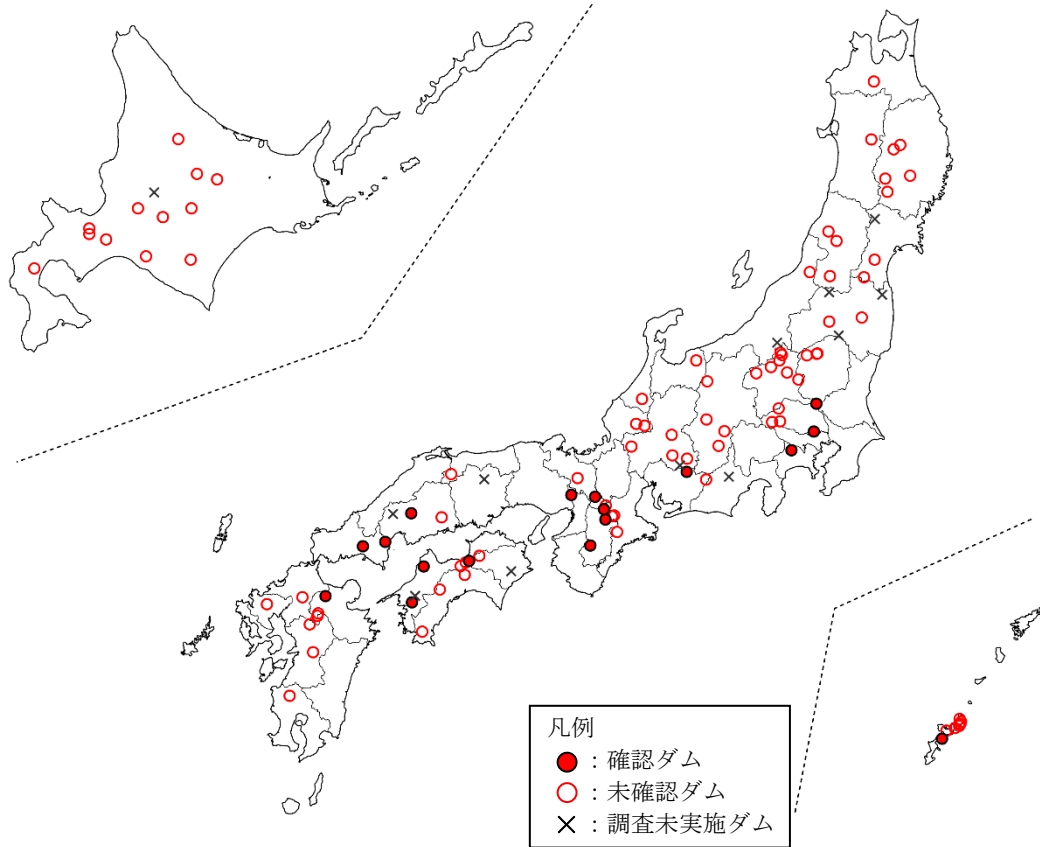


図 6-13 カメ目の確認状況



図 6-14 令和 6 年度 (2024 年度) 調査対象ダムにおいて確認されたカメ目

3 巡目調査 (平成 13～17 年度 (2001～2005 年度))



4 巡目調査 (平成 18～27 年度 (2006～2015 年度))

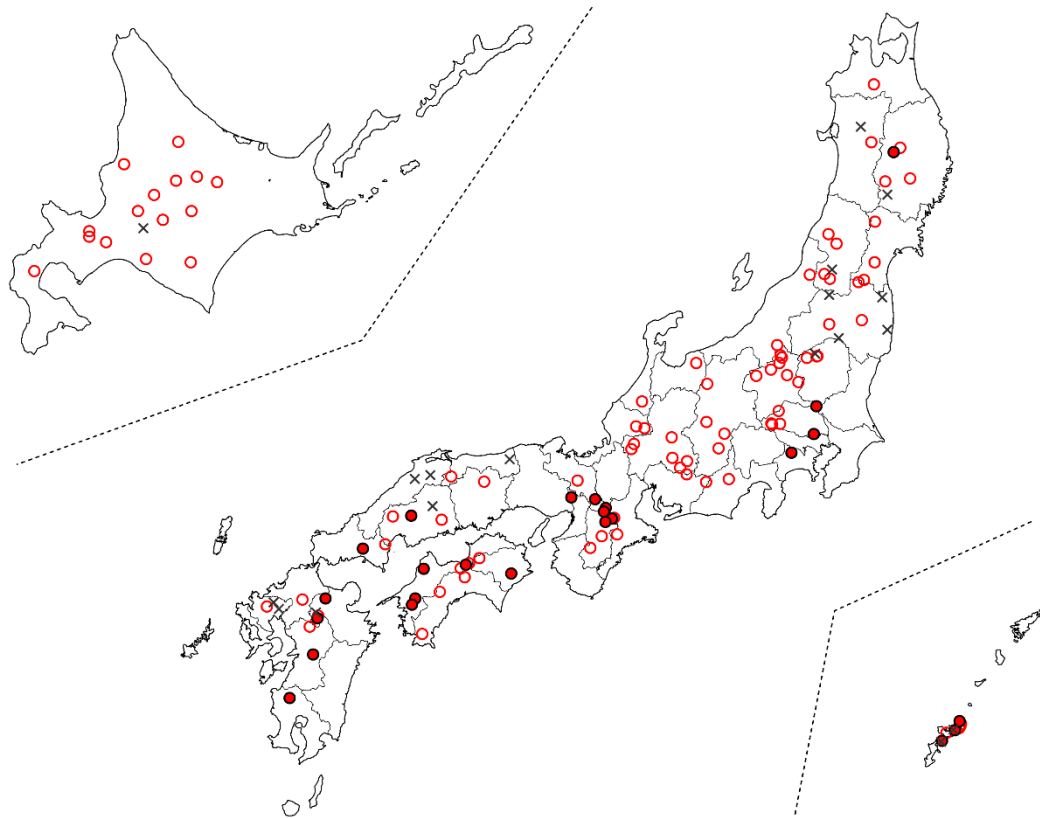


図 6-15 ミシシippアカミミガメの確認状況 (3 巡目調査、4 巡目調査) (1/2)

5 巡目調査（平成 28～令和 6 年度（2016～2024 年度））

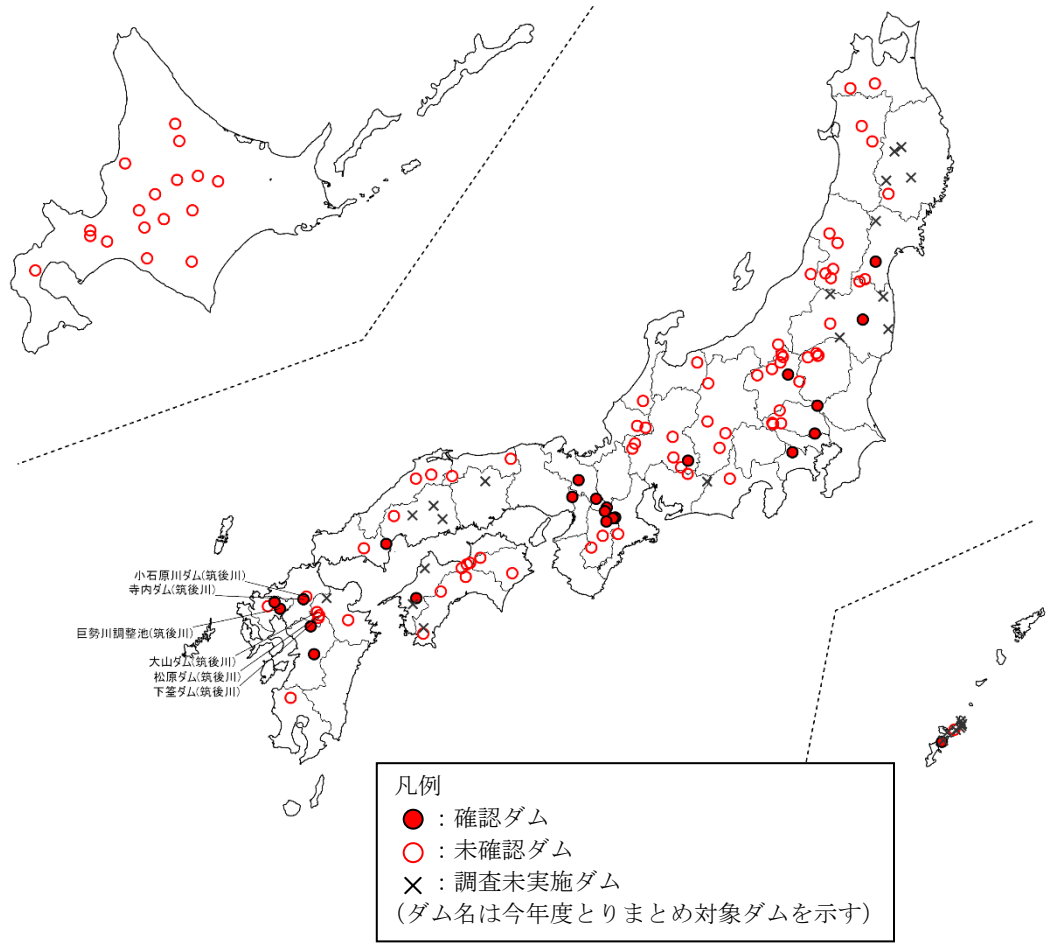
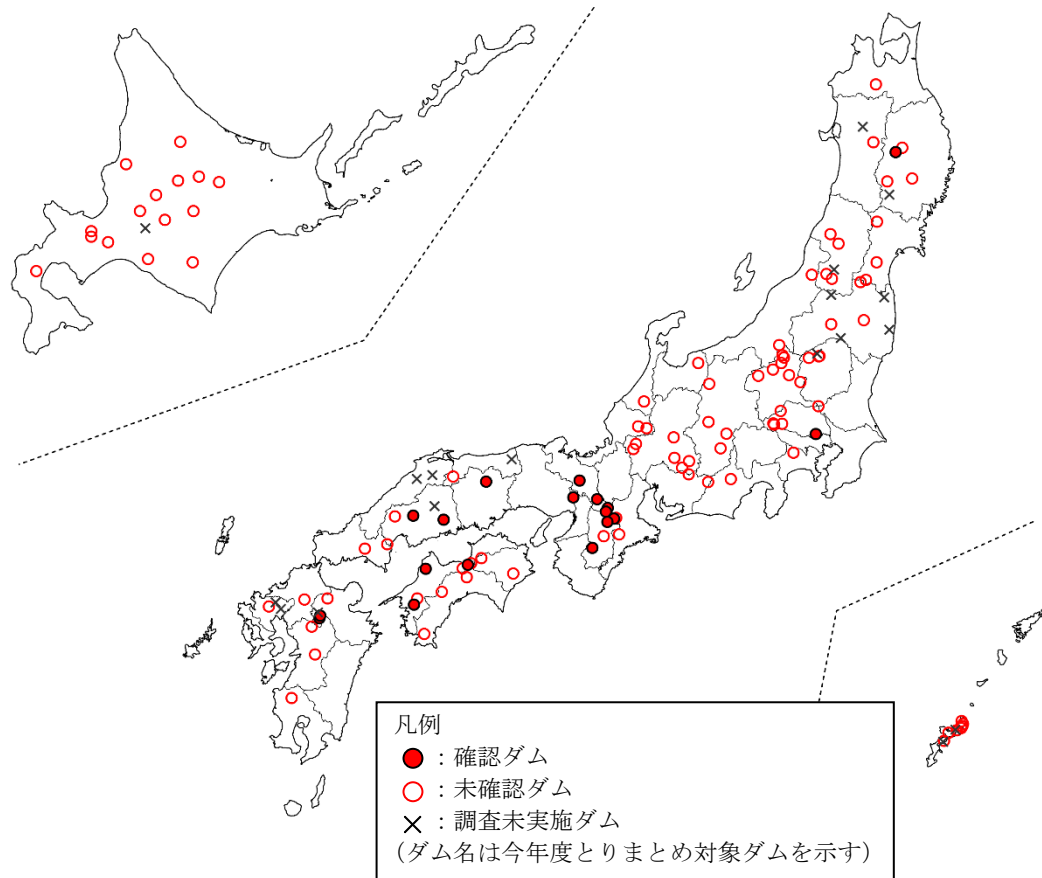


図 6-15 ミシシippアカミミガメの確認状況（5 巡目調査）（2/2）

4 巡目調査 (平成 18～27 年度 (2006～2015 年度))



5 巡目調査 (平成 28～令和 6 年度 (2016～2024 年度))

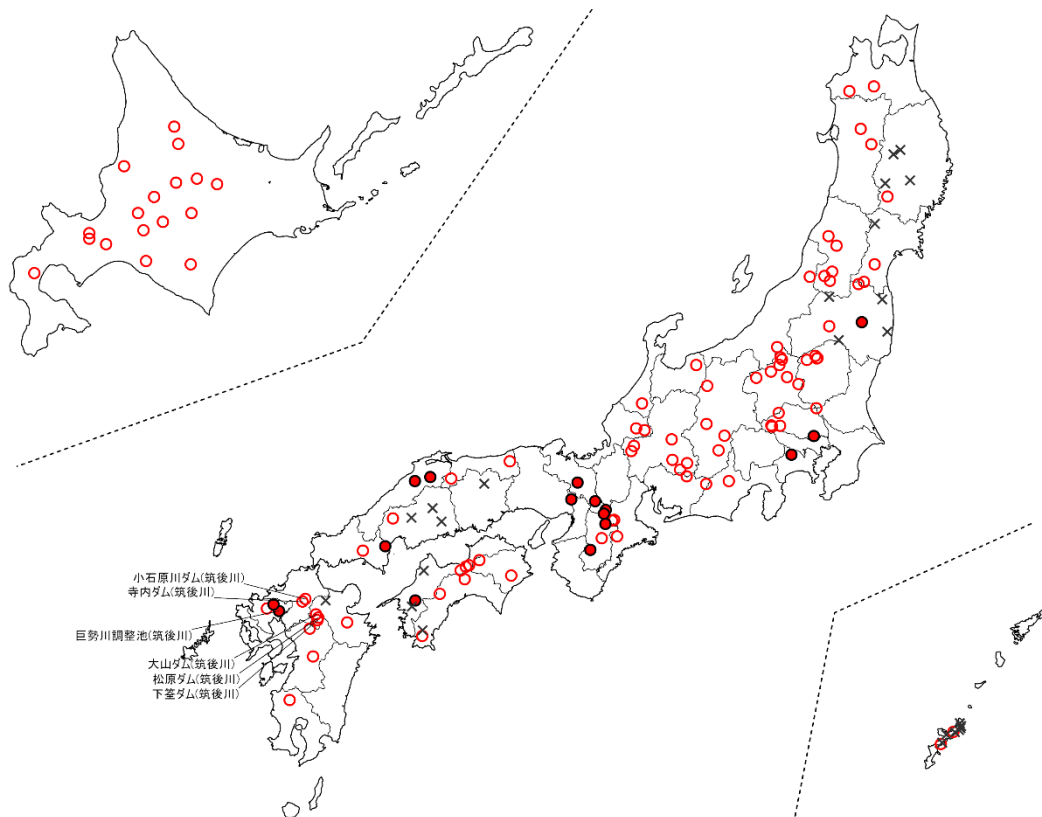


図 6-16 クサガメの確認状況 (4 巡目調査、5 巡目調査)

## 6.4 ダム管理との関わり（ダム湖周辺の生物相）

### (1) ダム湖周辺の自然度・健全度

ここでは、ダム湖周辺の生態系について、溪流環境の指標となる両生類および哺乳類の確認状況を整理しました。ダム湖周辺は良好な自然が残されている場所が多く、ダム管理を行っていくうえでも多様な自然に配慮していく必要があります。

なお、1巡目から5巡目調査では、調査の範囲や時期、回数等の条件が必ずしも同一ではありません。また、移動性の高い種や、限られた季節にしかみられない種もあることから、1巡目から5巡目調査の比較は同一ダムでの消長を示すものではなく、全国的な傾向を把握するための参考です。

#### 1) 溪流環境の指標となる両生類・哺乳類の確認状況

##### ・溪流環境の指標となる両生類・哺乳類のうち、6ダムで計3種を確認

ダム湖周辺の溪流環境の指標となる両生類及び哺乳類のカワネズミの確認状況を整理しました。

両生類では、今回とりまとめた6ダムのうち、今回確認されたのは、溪流環境を指標する種として選定した種のうち、チクシブチサンショウウオとカジカガエルの2種です。チクシブチサンショウウオは今回とりまとめた6ダムのうち、九州の下釜ダム、松原ダム、大山ダム、小石原川ダムの4ダムで確認されました。カジカガエルは今回とりまとめた6ダムのうち、九州の下釜ダム、松原ダム、大山ダム、寺内ダム、小石原川ダムの4ダムで確認されました。

カワネズミは、今回とりまとめた6ダムのうち、九州の下釜ダム、松原ダム、大山ダム、小石原川ダムの4ダムで確認されました。

多くのダムにおいて、ダム周辺に生息する溪流性の両生類及び哺乳類が生息可能な環境が維持されていると考えられます。

表 6-11 溪流環境の指標となる両生類の確認ダム数の巡目比較

種名	1 巡目調査 (80 ダム)	2 巡目調査 (82 ダム)	3 巡目調査 (96 ダム)	4 巡目調査 (111 ダム)	5 巡目調査 (110 ダム)	今回 確認
ブチサンショウウオ・ コガタブチサンショウウオ <sup>注5, 8, 9)</sup>	2/65 ダム [3.1%]	9/66 ダム [13.6%]	8/77 ダム [10.4%]	15/89 ダム [16.8%]	17/91 ダム [18.7%]	○
ブチサンショウウオ <sup>注8)</sup>	0/1 ダム [0.0%]	0/1 ダム [0.0%]	0/1 ダム [0.0%]	1/1 ダム [100.0%]	2/3 ダム [66.7%]	
チクシブチサンショウウオ <sup>注8)</sup>	1/4 ダム [25.0%]	3/4 ダム [75.0%]	4/5 ダム [80.0%]	4/5 ダム [80.0%]	5/6 ダム [83.3%]	○
コガタブチサンショウウオ <sup>注8)</sup>	1/3 ダム [33.3%]	1/3 ダム [33.3%]	2/3 ダム [66.7%]	1/3 ダム [33.3%]	0/3 ダム [0.0%]	
ヒダサンショウウオ・ ヒガシヒダサンショウウオ <sup>注6)</sup>	9/65 ダム [13.8%]	9/66 ダム [13.6%]	10/77 ダム [13.0%]	14/89 ダム [15.7%]	14/91 ダム [15.4%]	
ハコネサンショウウオ属 <sup>注7)</sup>	16/65 ダム [24.6%]	17/66 ダム [25.8%]	24/77 ダム [31.2%]	25/89 ダム [28.1%]	26/91 ダム [28.6%]	
ハナサキガエル	5/5 ダム [100%]	5/6 ダム [83.3%]	5/7 ダム [71.4%]	5/7 ダム [71.4%]	0/2 ダム [0.0%]	
ナミエガエル	5/5 ダム [100%]	4/6 ダム [66.7%]	5/7 ダム [71.4%]	5/7 ダム [71.4%]	0/2 ダム [0.0%]	
オキナワイシカワガエル	4/5 ダム [80.0%]	5/6 ダム [83.3%]	4/7 ダム [57.1%]	5/7 ダム [71.4%]	0/2 ダム [0.0%]	
カジカガエル	55/65 ダム [84.6%]	57/66 ダム [86.4%]	64/77 ダム [83.1%]	80/89 ダム [89.8%]	84/91 ダム [92.3%]	○

注1) 巡目調査の下の ( ) は、各巡目で調査をしていたダムの数を示す。各巡目に該当する年次に完成していないダムや調査未実施の巡目があるダムは、各巡目の計数に含まれていないため、巡目毎の調査実施ダム数は同じではない。

注2) [ ] 内は確認ダム数の対象ダム数に対する%を示す。対象ダム数は、各種の分布域を考慮したダム数であるため種毎に異なる。

注3) ブチサンショウウオ、チクシブチサンショウウオ、コガタブチサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオ属、カジカガエルの対象ダムは、北海道、沖縄を含まない。

注4) ハナサキガエル、ナミエガエル、オキナワイシカワガエルの対象ダムは、沖縄のみである。

注5) ブチサンショウウオは平成 20 年 (2008 年) にブチサンショウウオとコガタブチサンショウウオの 2 種に分かれた。ブチサンショウウオはさらに平成 31 年 (2019 年) にブチサンショウウオ、チュウゴクブチサンショウウオ、チクシブチサンショウウオの 3 種に、コガタブチサンショウウオは令和元年 (2019 年) にコガタブチサンショウウオ、マホロバサンショウウオ、ツルギサンショウウオ、イヨシマサンショウウオの 4 種に分かれた。過年度結果からはこれら 7 種を区別できないため、ブチサンショウウオ・コガタブチサンショウウオとして整理した。

注6) ヒダサンショウウオは平成 30 年 (2018 年) にヒダサンショウウオとヒガシヒダサンショウウオの 2 種に分かれた。過年度結果からはこれら 2 種を区別できないため、ヒダサンショウウオとして整理した。

注7) ハコネサンショウウオは平成 24~令和 4 年 (2012~2022 年) にかけて複数種に分かれた。過年度結果からはこれら複数種を区別できないため、ハコネサンショウウオ属として整理した。

注8) ブチサンショウウオ・コガタブチサンショウウオとして整理した 7 種のうち、九州地方に生息するブチサンショウウオ、チクシブチサンショウウオ、コガタブチサンショウウオの 3 種については、分布域より種判別することが可能であり、ダムの所在地に基づき記録を整理した。ダムが複数種の分布境界付近に位置する場合は、新種記載後の調査結果に基づき整理した。寺内ダムについてはチクシブチサンショウウオとコガタブチサンショウウオの分布境界付近に位置しているが、新種記載後の調査で確認がないことから、同ダムの記録はブチサンショウウオとコガタブチサンショウウオのそれぞれに含めて整理した。

注9) ブチサンショウウオ、チクシブチサンショウウオ、コガタブチサンショウウオの記録は各種で個別に整理したが、経年比較のためにブチサンショウウオ・コガタブチサンショウウオの記録にも含めて整理した。

表 6-12 溪流環境の指標となる哺乳類の確認ダム数の巡目比較

種名	1 巡目調査 (80 ダム)	2 巡目調査 (82 ダム)	3 巡目調査 (96 ダム)	4 巡目調査 (111 ダム)	5 巡目調査 (104 ダム)	今回 確認
カワネズミ	9/58 ダム [15.5%]	4/59 ダム [6.8%]	14/68 ダム [20.6%]	20/78 ダム [25.6%]	33/82 ダム [40.2%]	○

注1) 巡目調査の下の ( ) は、各巡目で調査をしていたダムの数を示す。各巡目に該当する年次に完成していないダムや調査未実施の巡目があるダムは、各巡目の計数に含まれていないため、巡目毎の調査実施ダム数は同じではない。

注2) [ ] 内は確認ダム数の対象ダム数に対する%を示す。

注3) カワネズミの対象ダムは、北海道、四国、沖縄を含まない。

今回とりまとめを行った 6 ダムのうち、九州の下笠ダム、松原ダム、大山ダム、寺内ダム、小石原川ダムの 5 ダムで溪流環境の指標となる両生類を確認しました。今回確認されたのは、溪流環境を指標とする種として選定した種のうち、ブチサンショウウオ (チクシブチサンショウウオ)、カジカガエルの 2 種です。ブチサンショウウオ・コガタブチサンショウウオについ

では、これまでまとめて整理しておりましたが、今回とりまとめから、九州に生息するブチサンショウウオ、コガタブチサンショウウオ、チクシブチサンショウウオの3種について、種ごとに整理することとしました。また、カジカガエルについては、ダム湖の上流河川、下流河川、およびダム湖内での確認結果を示すため、ダム湖環境エリア区分ごとにデータを取得している3巡目以降において、流入河川・ダム湖・下流河川ごとの確認結果を図示しました。

ブチサンショウウオ（チクシブチサンショウウオ）は、九州の下笠ダム、松原ダム、大山ダム、小石原川ダムの4ダムで確認されました。ブチサンショウウオは平成31年（2019年）にブチサンショウウオ（長崎県、佐賀県などの集団）、チュウゴクブチサンショウウオ（中国地方の集団）、チクシブチサンショウウオ（九州北東部の集団）の3種に分けられました。生態はいづれも似ており、溪流付近の森林に生息し、産卵は溪流の細い流れや伏流水中などで行われます。

カジカガエルは、今回とりまとめを行った6ダムのうち、九州の下笠ダム、松原ダム、大山ダム、寺内ダム、小石原川ダムの5ダムで確認されました。過年度の調査結果では、多くのダムで確認されており、溪流性の両生類としては最もよくみられる種だと考えられます。本種は本州・四国・九州に分布し、比較的川幅が広くて開けた溪流に棲み、流水部の石の下に卵を産みつけます。カジカガエルのダム湖周辺の経年的な確認状況をみると、今回が初めての調査となる大山ダム、小石原川ダムを除く3ダムでは調査開始以降継続して確認されています。

溪流環境の指標となる哺乳類のカワネズミは、九州の下笠ダム、松原ダム、大山ダム、小石原川ダムの4ダムで確認されました。本種は本州・九州に分布し、山地の溪流や源流部の瀬や淵のある河川を好みます。主に夜間に活動し、水中に潜り、水生昆虫、魚類、カエル、カニ、サンショウウオなどを捕食します。

ダム湖周辺での溪流環境の指標となる両生類・哺乳類の確認状況としては、確認割合が横ばい又は増加傾向にある種が多く、多くのダムにおいて溪流性の両生類および哺乳類が生息可能な環境が維持されていると考えられます。

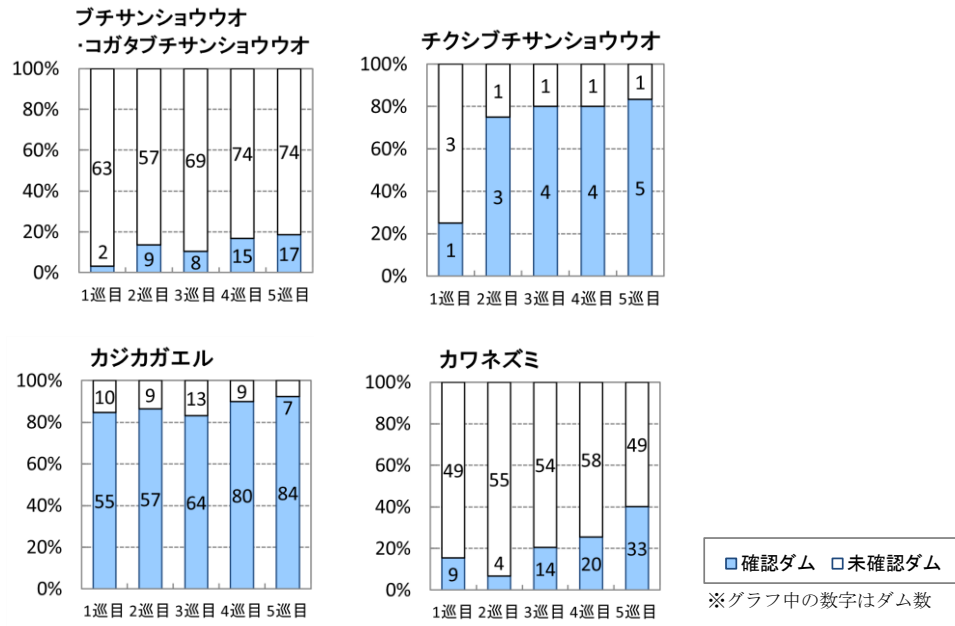
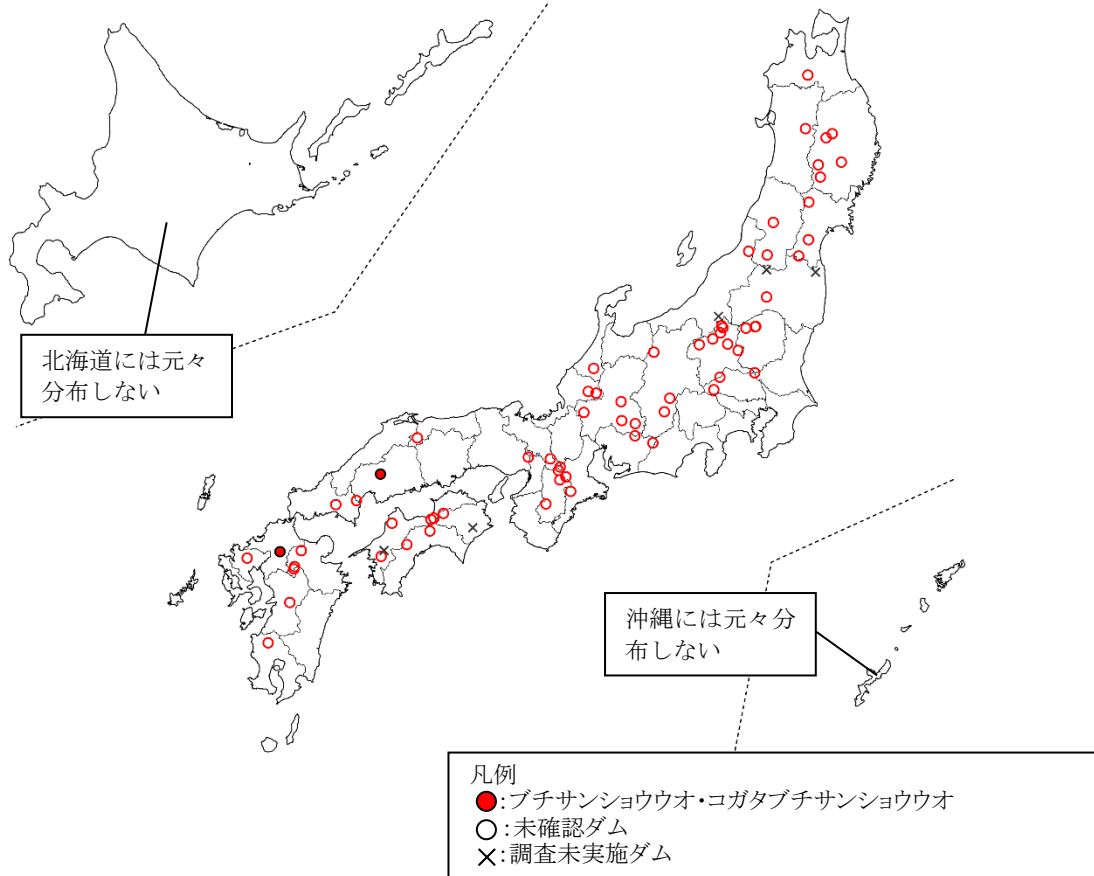


図 6-17 溪流環境の指標となる両生類・哺乳類の確認状況



図 6-18 令和 6 年度 (2024 年度) 調査対象ダムにおいて確認された  
溪流環境の指標となる両生類・哺乳類

1 巡目調査(平成 2～7 年度 (1990～1995 年度))



2 巡目調査 (平成 8～12 年度 (1996～2000 年度))

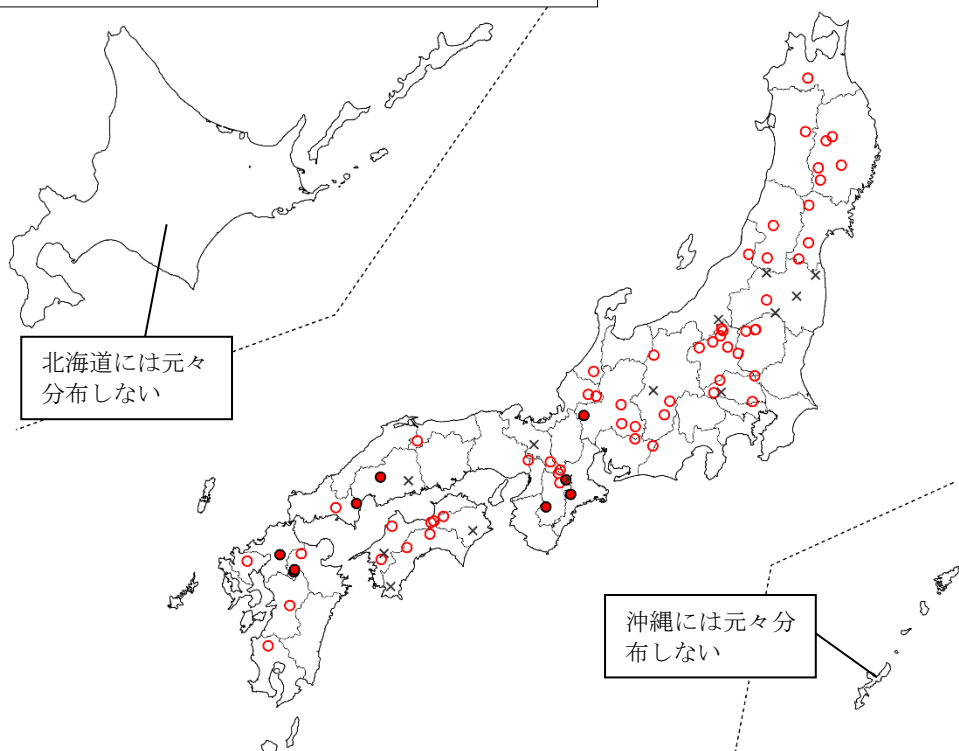
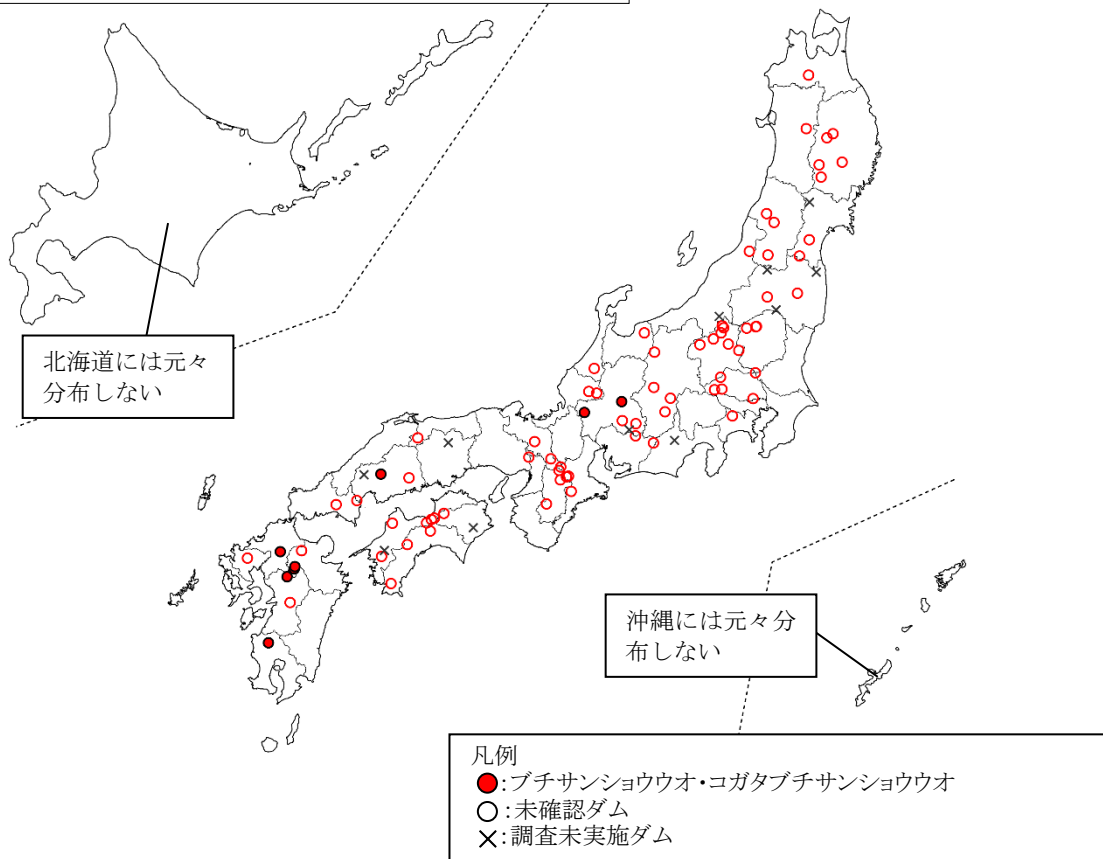


図 6-19 ブチサンショウウオ・コガタブチサンショウウオの確認状況(1 巡目調査、2 巡目調査) (1/3)

※ブチサンショウウオ・コガタブチサンショウウオ等は近年複数種にわかれたため、過年度の確認状況もあわせて示した。

3 巡目調査 (平成 13～17 年度 (2001～2005 年度))



4 巡目調査 (平成 18～27 年度 (2006～2015 年度))

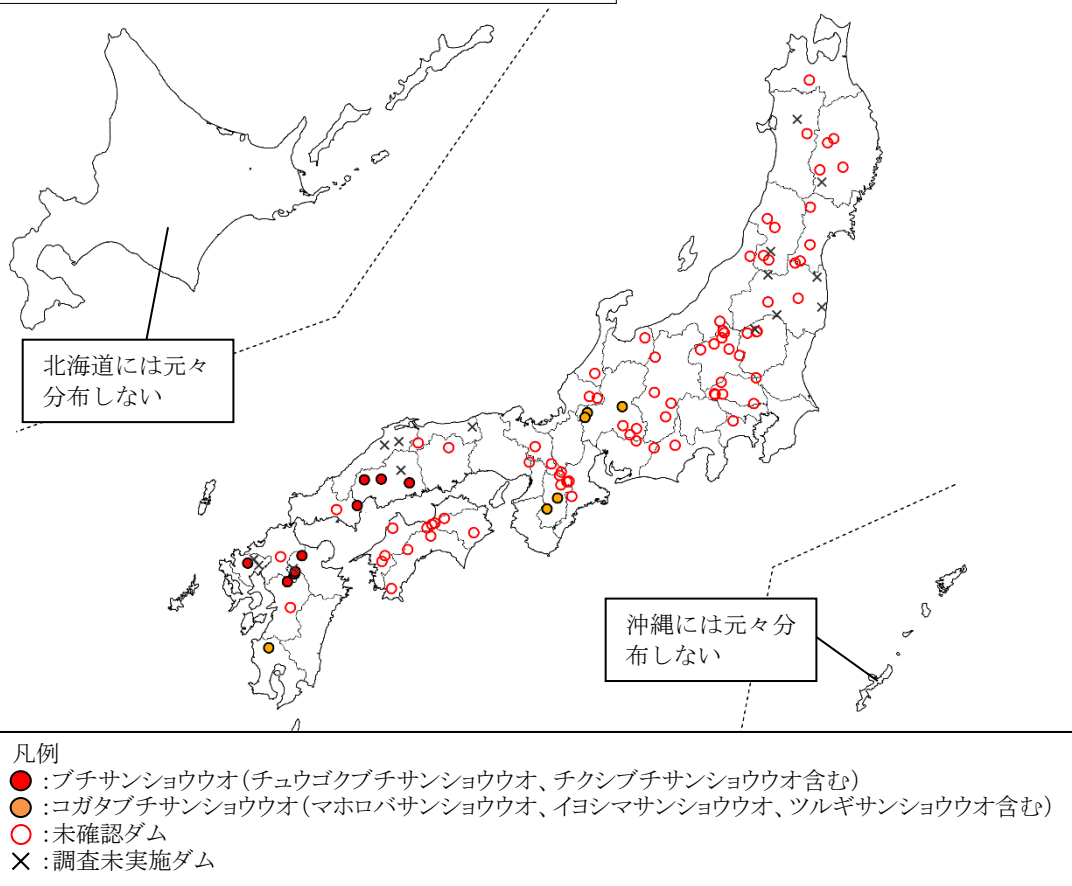
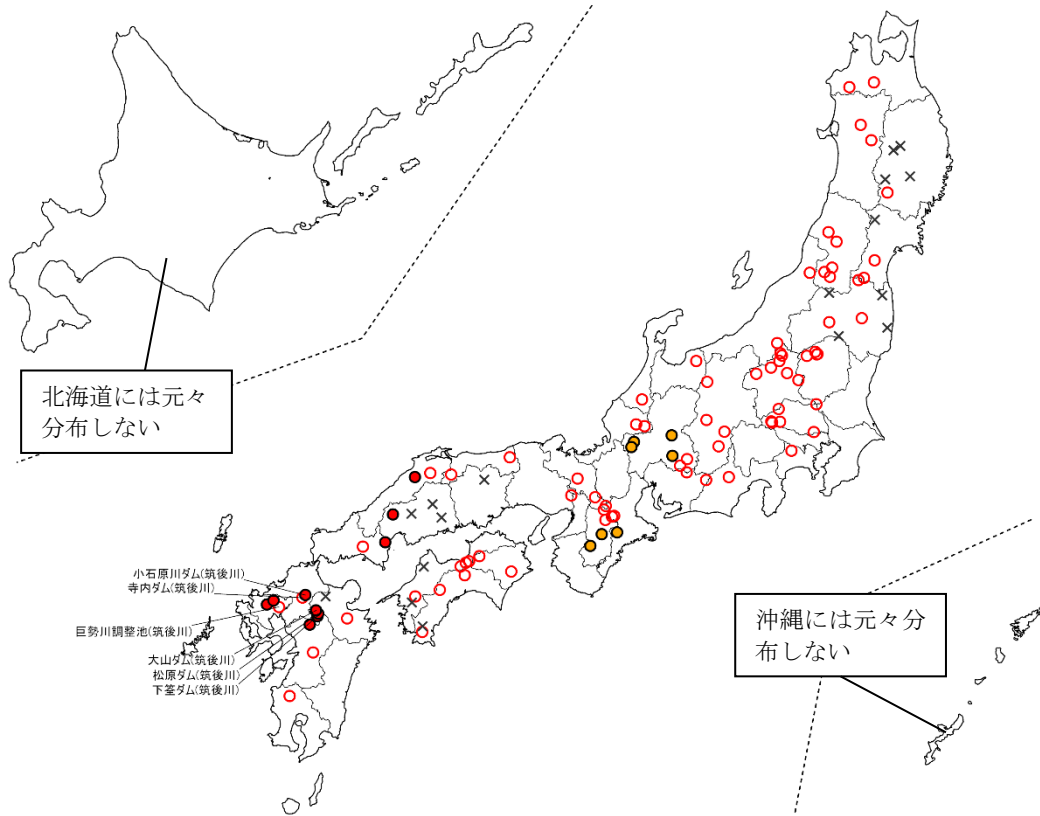


図 6-19 ブチサンショウウオ・コガタブチサンショウウオの確認状況 (3 巡目調査、4 巡目調査) (2/3)  
 ※ブチサンショウウオ・コガタブチサンショウウオ等は近年複数種にわかれたため、過年度の確認状況もあわせて示した。

5 巡目調査（平成 28～令和 6 年度（2016～2024 年度））



- 凡例
- : プチサンショウウオ(チュウゴクプチサンショウウオ、チクシブチサンショウウオ含む)
  - : コガタブチサンショウウオ(マホロバサンショウウオ、イヨシマサンショウウオ、ツルギサンショウウオ含む)
  - : 未確認ダム
  - × : 調査未実施ダム

図 6-19 プチサンショウウオ・コガタブチサンショウウオの確認状況（5 巡目調査）（3/3）

※プチサンショウウオ・コガタブチサンショウウオ等は近年複数種にわかれたため、過年度の確認状況もあわせて示した。

注：コガタブチサンショウウオ (*Hynobius stejnegeri*) は、平成 20 年（2008 年）にプチサンショウウオ (*H. naevius*) とは別種として新種記載され、その後、平成 31 年（2019 年）に近畿地方個体群がマホロバサンショウウオ (*H. guttatus*)、四国個体群がイヨシマサンショウウオ (*H. kuishiensis*)、およびツルギサンショウウオ (*H. tsurugiensis*) として新種記載されました。またプチサンショウウオはさらに複数種に分かれ、平成 31 年（2019 年）に中国地方個体群がチュウゴクプチサンショウウオ (*H. sematonotos*)、九州北東部個体群がチクシブチサンショウウオ (*H. oyamai*) として新種記載されました。過去の調査結果については同定がされていないこと等を踏まえて、それぞれの種を併せて図示しています。

1 巡目調査 (平成 2~7 年度 (1990~1995 年度))



2 巡目調査 (平成 8~12 年度 (1996~2000 年度))



図 6-20 チクシブチサンショウウオの確認状況 (1 巡目調査、2 巡目調査) (1/3)

3 巡目調査 (平成 13～17 年度 (2001～2005 年度))



4 巡目調査 (平成 18～27 年度 (2006～2015 年度))

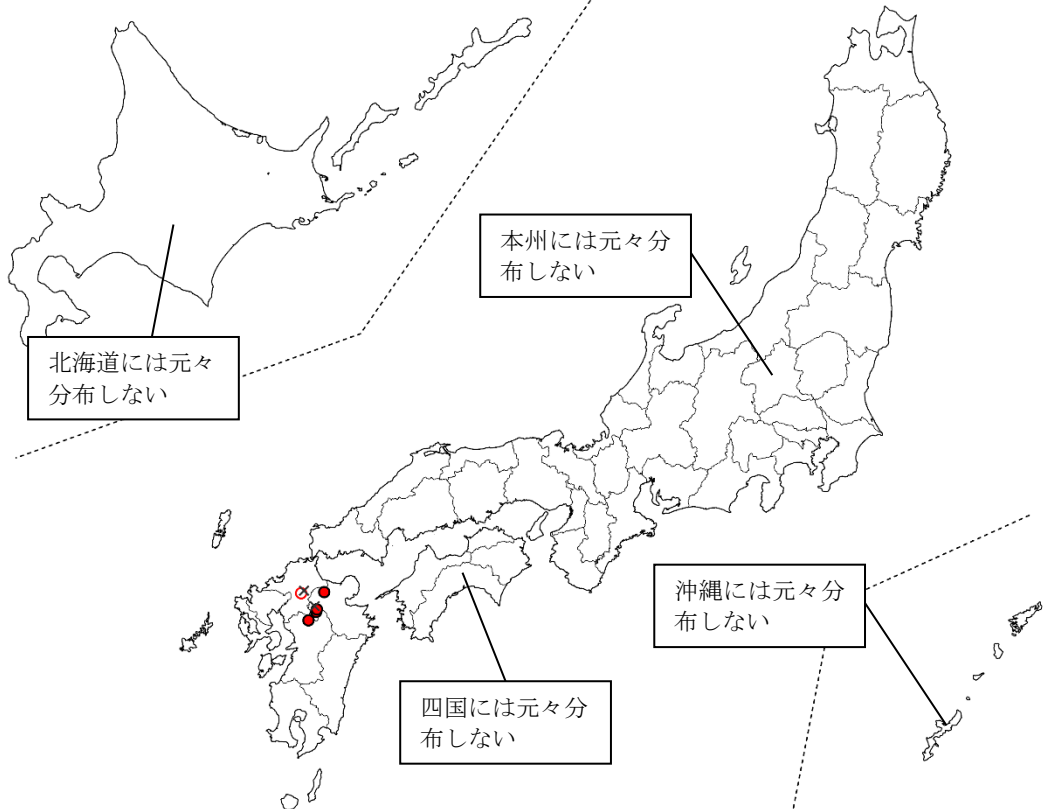


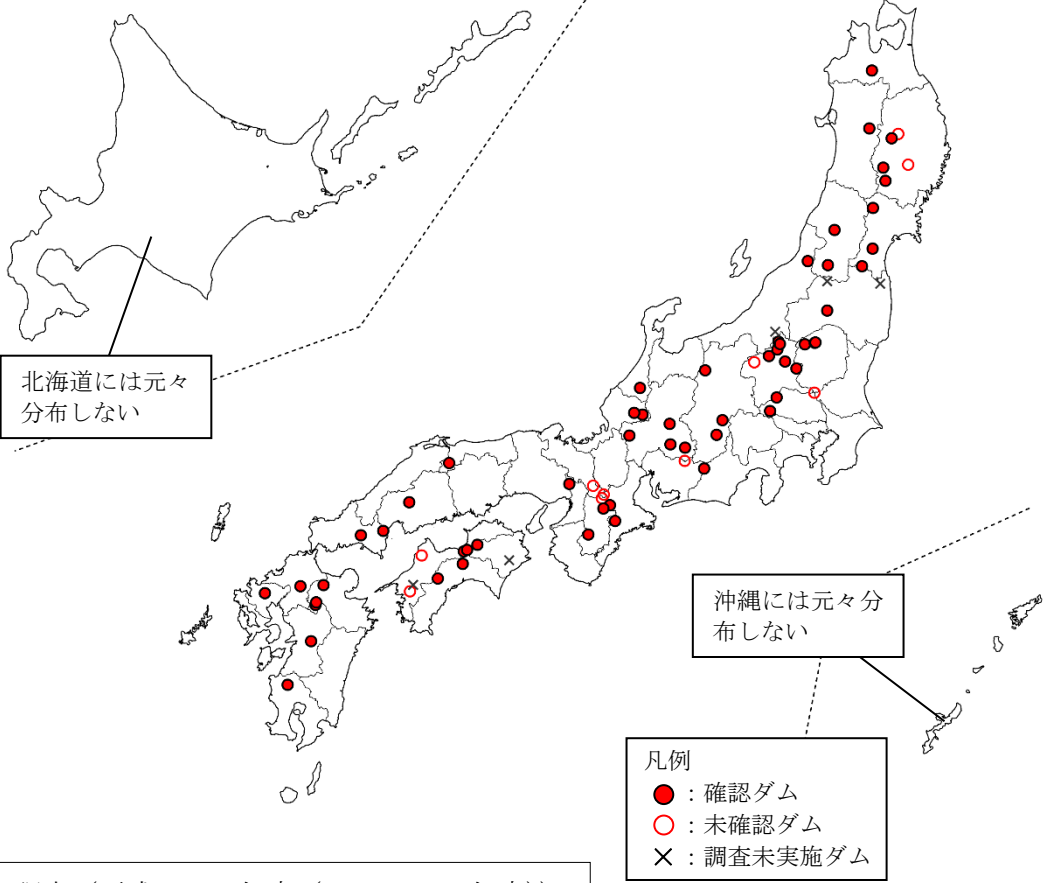
図 6-20 チクシブチサンショウウオの確認状況 (3 巡目調査、4 巡目調査) (2/3)

5 巡目調査 (平成 28～令和 6 年度 (2016～2024 年度))



図 6-20 チクシブチサンショウウオの確認状況 (5 巡目調査) (3/3)

1 巡目調査(平成 2～7 年度 (1990～1995 年度))



2 巡目調査 (平成 8～12 年度 (1996～2000 年度))

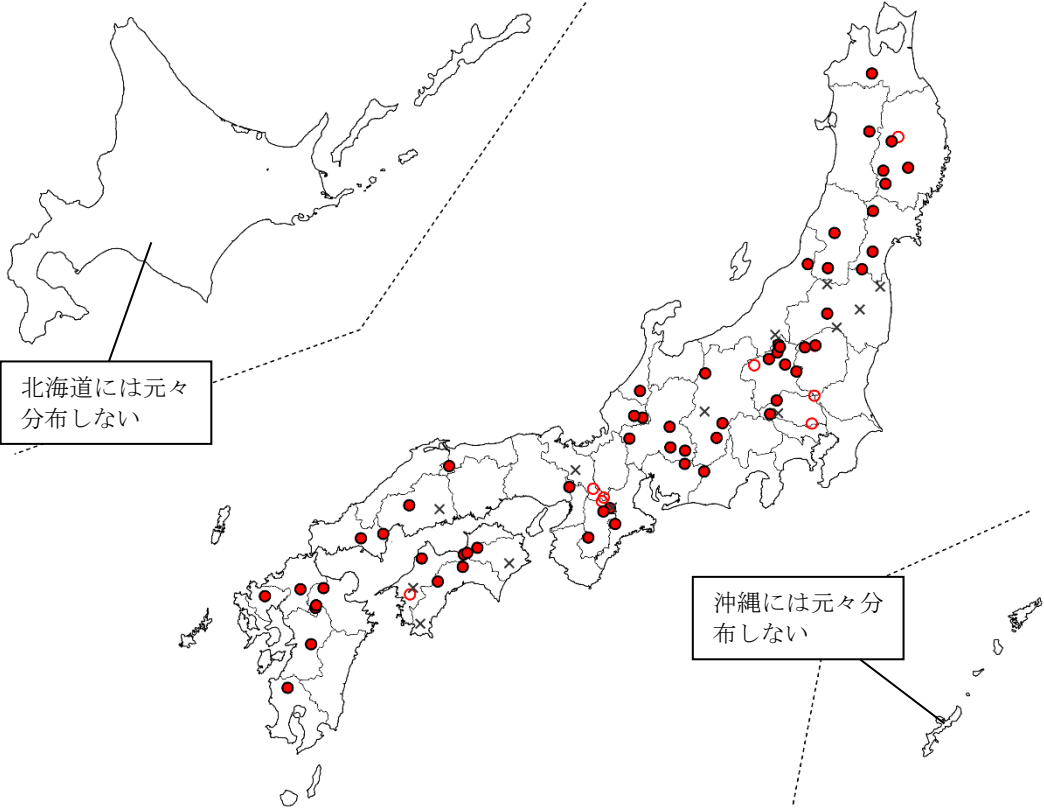
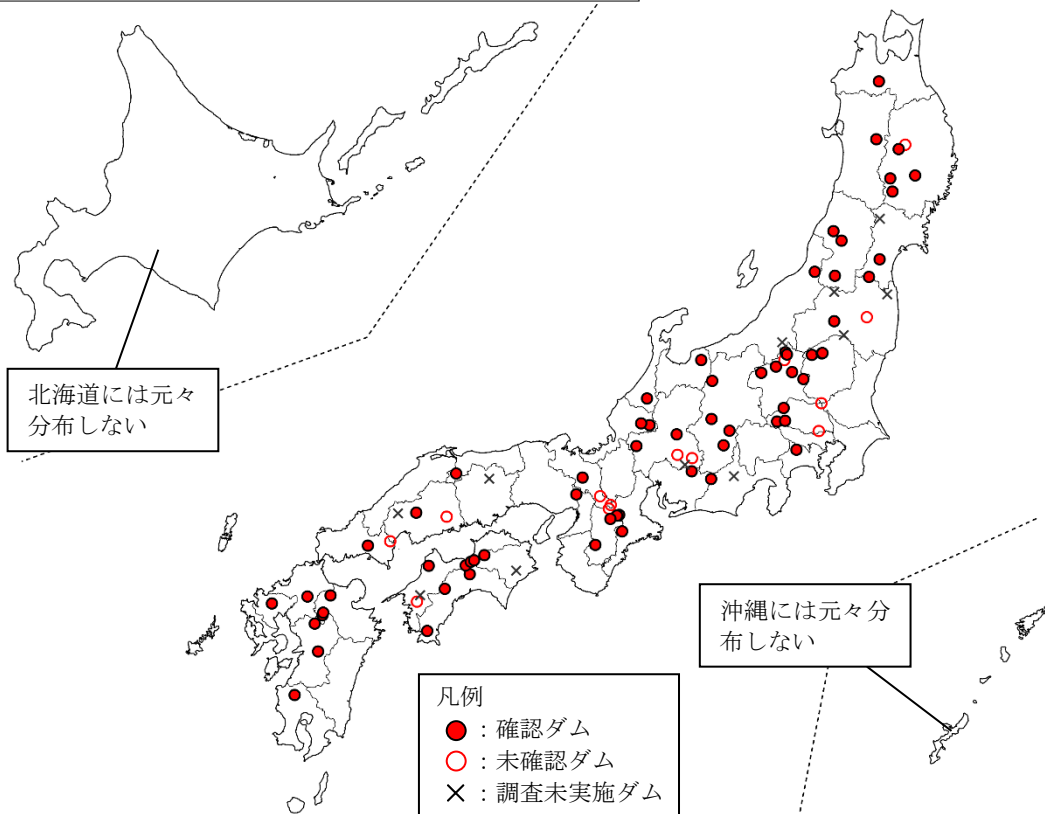


図 6-21 カジカガエルの確認状況 (1 巡目調査、2 巡目調査) (1/3)

※カジカガエルは全国的に分布している種であるため、過年度の確認状況もあわせて示した。

3 巡目調査 (平成 13～17 年度 (2001～2005 年度))



4 巡目調査 (平成 18～27 年度 (2006～2015 年度))

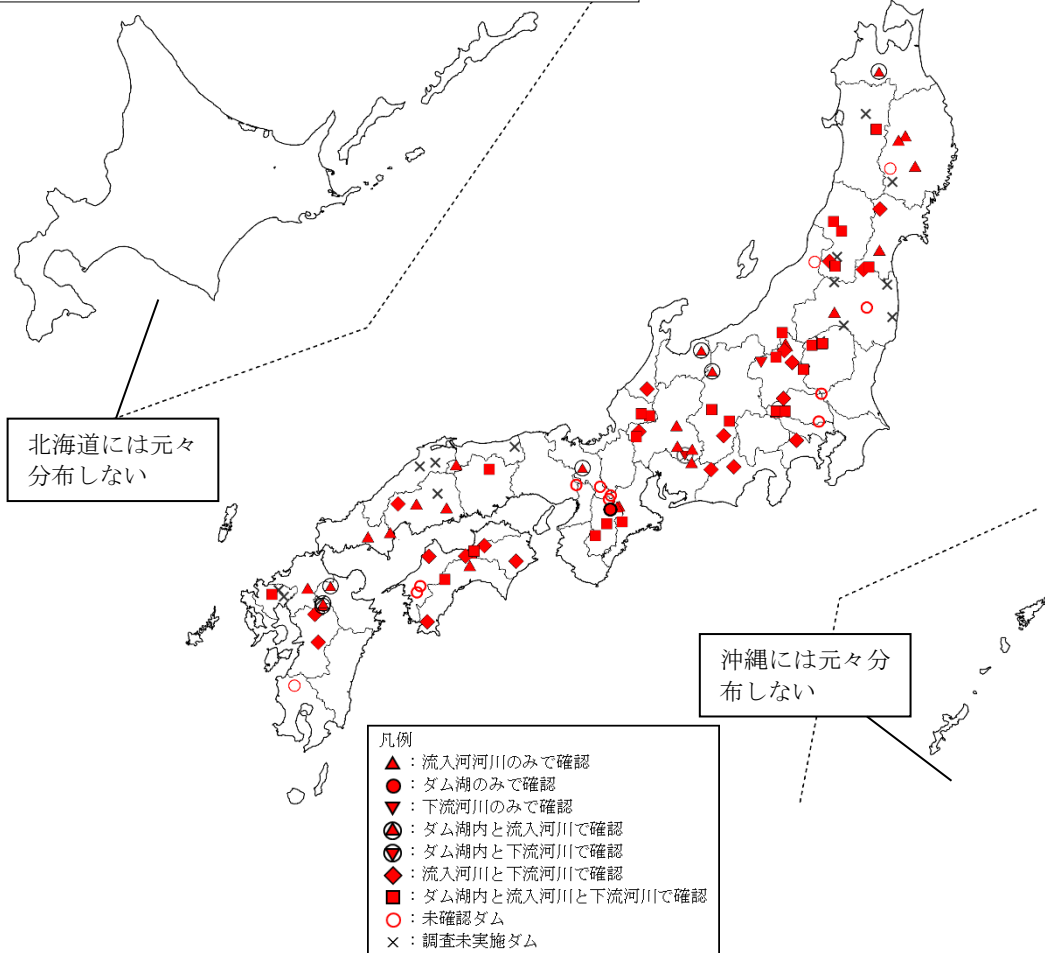


図 6-21 カジカガエルの確認状況 (3 巡目調査、4 巡目調査) (2/3)

※カジカガエルは全国的に分布している種であるため、過年度の確認状況もあわせて示した。

5 巡目調査（平成 28～令和 6 年度（2016～2024 年度））

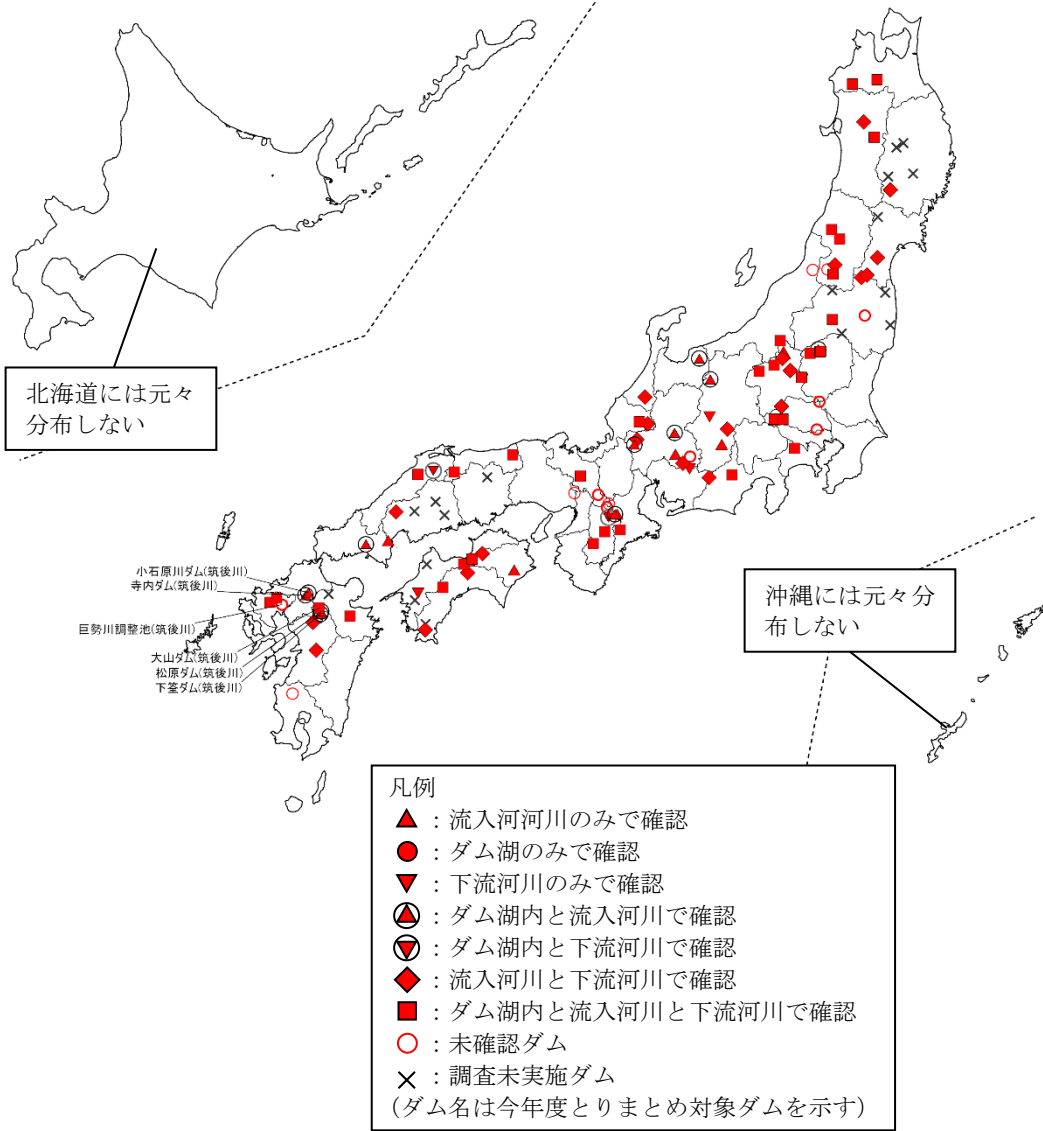
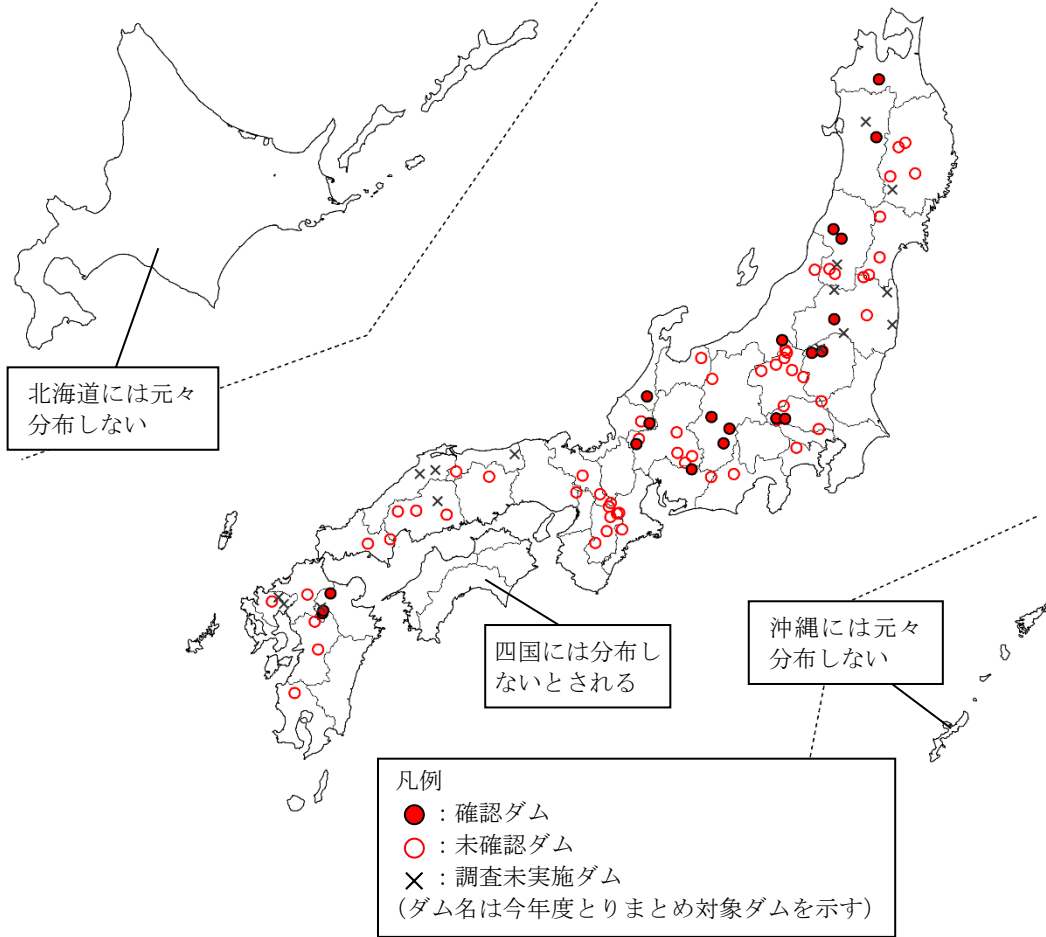


図 6-21 カジカガエルの確認状況（5 巡目調査）（3/3）

※カジカガエルは全国的に分布している種であるため、過年度の確認状況もあわせて示した。

4 巡目調査（平成 18～27 年度（2006～2015 年度））



5 巡目調査（平成 28～令和 6 年度（2016～2024 年度））

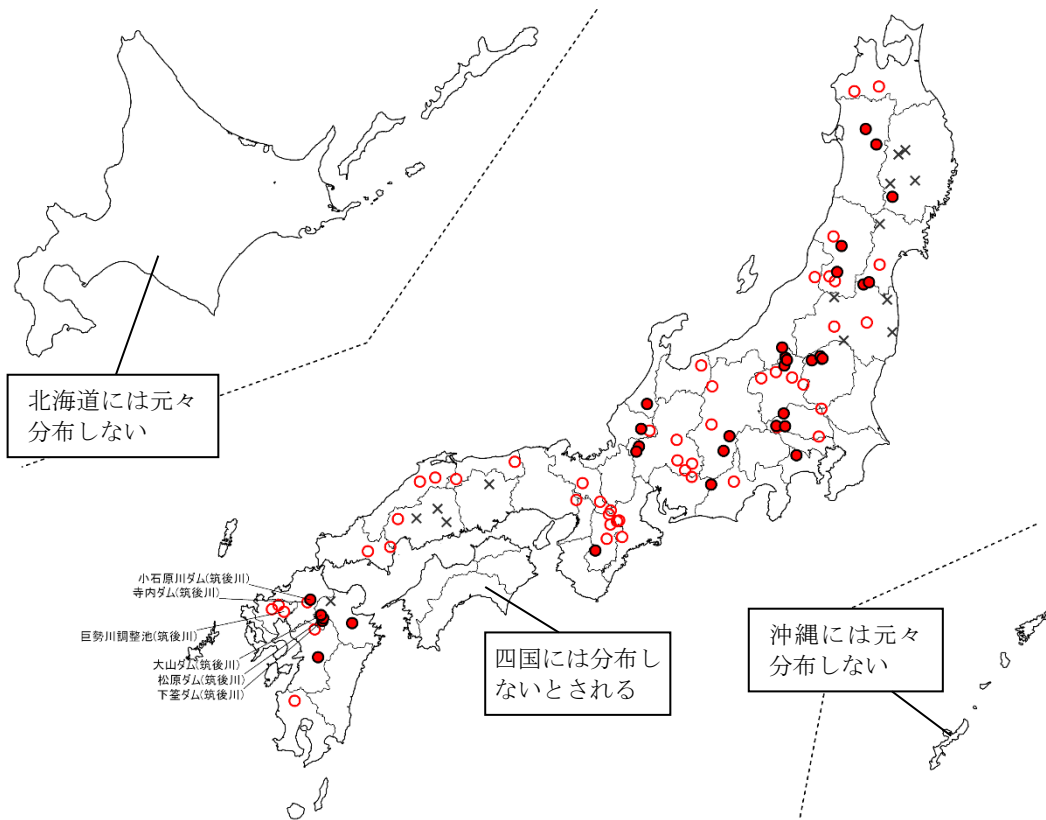


図 6-22 カワネズミの確認状況（4 巡目調査、5 巡目調査）

## (2) 新しい環境の生物相

ダムでは建設に伴い、地形の改変が行われます。また、ダム堤体や周辺道路等によって改変・消失した環境の代償として、生物の生息・生育環境の創出等も行っています。

5 巡目の調査からは、ダムによって作られた新しい環境である地形改変箇所（ダム建設に伴う一般的な地形改変箇所としては、貯水池、ダム堤体のほか、原石採取跡地、建設発生土受入地、大規模な掘削法面等があります）や、環境創出箇所（生物の生息・生育環境を創出する目的で整備されたビオトープ等）に調査地区を設定し、環境への影響、又は効果を検証するため、生物の生息・生育環境を確認することとしています。ここでは、その調査結果を整理しました。

なお、本項目で示す重要種および外来種は、各ダムの基準で重要種および外来種に該当する種を含みます。

### 1) 地形改変箇所における確認状況

#### ・地形改変箇所が両生類・爬虫類・哺乳類の生息場となっていることを確認

ダム建設に伴い改変された箇所における両生類、爬虫類、哺乳類の確認状況を整理しました。今回とりまとめを行った6ダムのうち、地形改変箇所の調査が行われたのは九州の下笠ダムで1調査地区、大山ダムで1調査地区、小石原川ダムで1調査地区でした。

九州の下笠ダムの耕作地では、両生類は重要種のアカハライモリ、ニホンヒキガエル、トノサマガエル、カジカガエルを含む7種、爬虫類はニホンヤモリ、ヤマカガシを含む6種、哺乳類は重要種のカヤネズミ、ムササビ、外来種のアライグマを含む14種が確認されました。

九州の大山ダムの原石山跡地では、両生類は重要種のアカハライモリを含む2種、爬虫類は確認されず、哺乳類は重要種のカヤネズミを含む6種が確認されました。

九州の小石原川ダムのコア山では、両生類は重要種のとノサマガエル、カジカガエルを含む3種、爬虫類はニホントカゲの1種、哺乳類は重要種のカヤネズミ、外来種のアライグマを含む10種が確認されました。

表 6-13 地形改変箇所とダムの確認種数の比較


ダム名	地形改変箇所 内容	両生類		爬虫類		哺乳類	
		ダム湖周辺	地形改変	ダム湖周辺	地形改変	ダム湖周辺	地形改変
下笠ダム	耕作地	8	7	5	6	17	14
大山ダム	原石山跡地	5	2	8	0	16	6
小石原川ダム	コア山	10	3	5	1	18	10

表 6-14 各ダムの地形改変箇所における生物の確認状況 (1/2)

ダム名	確認状況	
下笠ダム (昭和 48 年(1973 年)竣工)	<p><b>【耕作地】</b> まとまった耕作地が広がっており、ダム周辺を代表する群落です。水田耕作地が広がり、スギ林が隣接します。 両生類 7 種、爬虫類 6 種、哺乳類 14 種、合計 27 種が確認されました。 両生類は重要種のアカハライモリ、ニホンヒキガエル、トノサマガエル、カジカガエルを含む 7 種、爬虫類はニホンヤモリ、ヤマカガシを含む 6 種、哺乳類は重要種のジネズミ、ムササビ、カヤネズミ、外来種のアライグマを含む 14 種が確認されました。 確認種数はダム湖周辺と比較して、爬虫類は 1 種多く、両生類および哺乳類は少ない結果となっていました。</p>	 <p>写真出典: 大山ダム・下笠ダム河川水辺の国勢調査(両生類・爬虫類・哺乳類他)業務【下笠ダム編】報告書(令和 7 年 3 月)</p>
大山ダム (平成 24 年(2012 年)竣工)	<p><b>【原石山跡地】</b> 原石山跡地であり、大規模な地形改変箇所にあたります。原石山跡地で、落葉広葉樹が植栽されているほか、草本類が侵入しています。 両生類 2 種、爬虫類 0 種、哺乳類 6 種、合計 8 種が確認されました。 両生類は重要種のアカハライモリを含む 2 種、爬虫類は確認されず、哺乳類は重要種のカヤネズミを含む 6 種が確認されました。 確認種数はダム湖周辺と比較して、両生類、爬虫類、哺乳類ともに少ない結果となっていました。特に爬虫類の確認種数が少なく、ダム湖周辺の地点で確認されている種が確認されませんでした。</p>	 <p>写真出典: 大山ダム・下笠ダム河川水辺の国勢調査(両生類・爬虫類・哺乳類他)業務【大山ダム編】報告書(令和 7 年 3 月)</p>

注 1) 表中の重要種及び外来種は、各ダムの基準で重要種及び外来種に該当する種を含む。

表 6-14 各ダムの地形改変箇所における生物の確認状況 (2/2)

ダム名	確認状況	
小石原川ダム (平成 31 年(2019 年)竣工)	<p><b>【コア山】</b>                      大半が植樹をした人工裸地になります。一部にヤナギタデ群落が存在し、人工構造物内にため池が存在しています。常落混交広葉樹林の回復を目標として、樹木が植栽されましたが、現状ではススキが優占する高茎草地在大部分となっています。</p> <p>両生類 3 種、爬虫類 1 種、哺乳類 10 種、合計 14 種が確認されました。</p> <p>両生類は重要種のとノサマガエル、カジカガエルを含む 3 種、爬虫類はニホントカゲの 1 種、哺乳類は重要種のカヤネズミ、外来種のアライグマを含む 10 種が確認されました。</p> <p>確認種数はダム湖周辺と比較して、両生類、爬虫類、哺乳類ともに少ない結果となっていました。特に爬虫類の確認種数が少なく、ダム湖周辺の地点で確認されているヘビ類が確認されませんでした。</p>	 <p>写真出典:寺内ダム・小石原川ダム河川水辺の国勢調査(両生類・爬虫類・哺乳類他)業務【小石原川ダム編】報告書(令和 7 年 3 月)</p>

注 1) 表中の重要種及び外来種は、各ダムの基準で重要種及び外来種に該当する種を含む。

## 2) 環境創出箇所における確認状況

### ・環境創出箇所が両生類、爬虫類及び哺乳類の生息場となっていることを確認

ダム建設に伴い整備された環境創出箇所（ビオトープ等）における両生類、爬虫類、哺乳類の確認状況を整理しました。今回とりまとめを行った6ダムのうち、環境創出箇所の調査が行われたのは、九州の小石原川ダムで1調査地区、巨勢川調整池で1調査地区でした。

九州の小石原川ダムの栗河内ビオトープでは、両生類は重要種のとノサマガエルを含む4種、爬虫類はニホントカゲの1種、哺乳類は重要種のカヤネズミ、キツネを含む5種が確認されました。

九州の巨勢川調整池の造成水路では、両生類はヌマガエルの1種、爬虫類はカメ目の1種、哺乳類は外来種のアライグマを含む4種が確認されました。

表 6-15 環境創出箇所とダムの確認種数の比較

ダム名	環境創出箇所 内容	両生類		爬虫類		哺乳類	
		ダム湖周辺	環境創出	ダム湖周辺	環境創出	ダム湖周辺	環境創出
小石原川ダム	栗河内ビオトープ	10	4	5	1	18	5
巨勢川調整池	造成水路	3	1	6	1	9	4

表 6-16 各ダムの環境創出箇所における生物の確認状況

ダム名	確認状況
小石原川ダム (平成 31 年(2019 年)竣工)	<p><b>【栗河内ビオトープ】</b> 人工裸地の中ビオトープとして整備した開放水面が存在する環境です。創出した湿地が両生類の良好な繁殖の場として機能していますが、草地環境はまだ回復途上であり、草本類の草丈、密度は低くなっています。 両生類 4 種、爬虫類 1 種、哺乳類 5 種、合計 10 種が確認されました。 両生類は重要種のトノサマガエルを含む 4 種、爬虫類はニホントカゲの 1 種、哺乳類は重要種のカヤネズミ、キツネを含む 5 種が確認されました。 確認種数はダム湖周辺と比較して、両生類、爬虫類、哺乳類ともに少ない結果となっていました。特に爬虫類の確認種数が少なく、ダム湖周辺の地点で確認されているヘビ類が確認されませんでした。</p>
巨勢川調整池 (平成 21 年(2009 年)竣工)	<p><b>【造成水路】</b> ミナミメダカをはじめとした在来種に配慮して造成された流水水路になります。周囲にはヨシが繁茂しており、底質は粘土質の泥となっています。水量は少なく、ヨシ群落が増加し土砂が堆積しており、水路が干出・陸化傾向にあります。地下水をポンプアップして水源供給しているため、夏季の高温時にも比較的低温となっています。 両生類 1 種、爬虫類 1 種、哺乳類 4 種、合計 6 種が確認されました。 両生類はヌマガエルの 1 種、爬虫類はカメ目の 1 種、哺乳類は外来種のアライグマを含む 4 種が確認されました。 確認種数はダム湖周辺と比較して、両生類、爬虫類、哺乳類ともに少ない結果となっていました。特に爬虫類の確認種数が少なく、ダム湖周辺の地点で確認されているニホンヤモリ、ニホンカナヘビ、シマヘビが確認されませんでした。</p>



写真出典: 寺内ダム・小石原川ダム河川水辺の国勢調査(両生類・爬虫類・哺乳類他)業務【小石原川ダム編】報告書(令和 7 年 3 月)



写真出典: 令和5・6年度佐賀河川事務所管内環境調査外業務 報告書(令和 7 年 3 月)

注 1) 表中の重要種及び外来種は、各ダムの基準で重要種及び外来種に該当する種を含む。



表 6-17 分析対象種の確認ダムの経年比較【両生類・爬虫類・哺乳類】(2/4)

地域	項目 種名	深達性の指標となる調査年										深達性の指標となる調査年										深達性の指標となる調査年										今回 対象 ダム					
		ハナササキ川					中ノ江川					オホノワカ川					カワネズミ					丹生川															
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5						
北海道	ダム名/項目	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
	北内川ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	0	0	0	0	0	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
	サウルダム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	鹿ノ子ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	0	0	0	0	0	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
	鹿ノ子ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	0	0	0	0	0	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
	大倉ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	0	0	0	0	0	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
	忠別ダム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	金山ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	0	0	0	0	0	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
	滝里ダム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	桂沢ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	0	0	0	0	0	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
	滝川ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	0	0	0	0	0	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
	豊平橋ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	0	0	0	0	0	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
	定山ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	0	0	0	0	0	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
	夕陽ハートダム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	家新野ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	0	0	0	0	0	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	
二風谷ダム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
十勝ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	0	0	0	0	0	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x		
札幌川ダム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
東北	津軽ダム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	球磨石川ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	1	2	2	2	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x		
	四十四田ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	0	0	0	1	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x		
	柳野ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	2	2	2	2	-	-	-	-	-	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x		
	田瀬ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	1	2	2	2	-	-	-	-	-	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x		
	津田ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	2	2	2	2	-	-	-	-	-	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x		
	田沢ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	2	2	2	2	-	-	-	-	-	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x		
	鴨子ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	2	2	2	2	-	-	-	-	-	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x		
	釜原ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	1	1	1	1	1	1	1	1	1	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x		
	徳川ダム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	三番ダム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	増上川ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	0	0	0	0	-	-	-	-	-	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x		
	七ヶ宿ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	2	2	2	2	2	2	2	2	2	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x		
	真野ダム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	木戸ダム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
喜山ダム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
五川ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	2	2	2	2	2	2	2	2	2	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x			
白川ダム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
長井ダム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
寒河江ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	2	2	2	2	2	2	2	2	2	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x			
月山ダム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
女木ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	2	2	2	2	2	2	2	2	2	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x			
藤田ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	2	2	2	2	2	2	2	2	2	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x			
奈良橋ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	1	1	1	1	1	1	1	1	1	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x			
相模ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	1	1	1	1	1	1	1	1	1	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x			
徳島ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	1	1	1	1	1	1	1	1	1	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x			
島本ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	0	1	2	2	2	2	2	2	2	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x			
八ヶ峰ダム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
下久保ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	1	2	2	2	2	2	2	2	2	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x			
草木ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	2	1	1	1	1	1	1	1	1	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x			
遠良瀬遊水池	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	0	0	0	0	0	0	0	0	0	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x			
川俣ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	2	2	2	2	2	2	2	2	2	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x			
川治ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	2	0	2	2	2	2	2	2	2	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x			
湯西川ダム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
五十里ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	2	2	2	2	2	2	2	2	2	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x			
二瀬ダム	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	2	2	4	4	3	3	3	3	3	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x			
荒川親湖	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
津波ダム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
浦山ダム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
宮ヶ瀬ダム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																	

表 6-17 分析対象種の確認ダムの経年比較【両生類・爬虫類・哺乳類】(3/4)

項目	種名/項目	ワシントン					タートル					アライグマ					シロアゴガエル					マスカラット					ミンク					国外表種					今回 対象 ダム					
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5		1	2	3	4	5
北海道	沼ノ子ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
	大船ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
	大船別ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
	金山ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
	海軍ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
	桂沢ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
	津川ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
	豊平橋ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
	石山渡りダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
	夕張ニュープロダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
	奥利河ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
	二風谷ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
	十勝ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
	札内川ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
	津軽ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
	津軽石川ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
	田中川ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
	田舎ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
	三春ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
	三春上川ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
七ヶ宿ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
真木ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
森吉山ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
玉川ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
白川ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
秋井ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
東河江ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
月山ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
矢木沢ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
長良川ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
相模ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
藤原ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
島本ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
八ヶ岳ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
下久保ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
基本ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
渡良瀬遊水地	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
川俣ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
川俣ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
渡良瀬川ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
五瀬ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
二瀬ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
荒川調整池	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
荒川ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
荒川ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
荒川ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
荒川ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
荒川ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
荒川ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
荒川ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
荒川ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
荒川ダム	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X																						



表 6-18 令和6年度（2024年度）河川水辺の国勢調査〔ダム湖版〕とりまとめ対象ダム 現地調査実施状況（両生類・爬虫類・哺乳類）

地方	ダム名	現地調査実施日	両生類		爬虫類		哺乳類				調査地区数																					
			調査時期				調査時期				トラップ 地点数注	餌	ダム湖		ダム湖周辺					その他												
			春	夏	秋	冬	早春	春	夏	秋			冬	早春	春	夏	秋	冬	早春	流入部	湖岸部	水位変動域	エコトーン	樹林内	岸道路や沢	その他	流入河川	下流河川	地形 変更箇所	環境 創出箇所	その他	
九州	下笠ダム	【両爬】令和6年5月22日、24日～26日、8月13日～16日、10月21日～24日、令和7年1月14～17日 【哺】令和6年5月22日、24日～26日、8月13日～16日、10月21日～24日、令和7年1月14～17日	○	○	○	-	○	○	○	-	-	○	○	○	-	【シャーマン】30個×6調査区 【墜落かん】30個×6調査区 【カメ】2個×3調査地区	【シャーマン】さきいか、ビーナッツ、イモ 【墜落かん】さきいか 【カメ】魚（アジ・サバ）	1	2	-	1	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	松原ダム	【両爬】令和6年5月21日～23日、7月31日～8月2日、10月29日～10月31日、令和7年1月20日～1月22日 【哺】令和6年5月21日～23日、7月31日～8月2日、10月29日～10月31日、令和7年1月20日～1月22日	○	○	○	-	○	○	○	-	-	○	○	○	-	【シャーマン】30個×5調査区 【墜落かん】30個×5調査区 【カメ】1個×4調査地区	【シャーマン】さきいか、ビーナッツ、サツマイモ、オートミール 【墜落かん】さきいか、ミルワーム 【カメ】魚、鶏肉	-	2	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	大山ダム	【両爬】令和6年5月21日～26日、8月7日～9日、11月11日～15日 【哺】令和6年5月21日～26日、8月7日～9日、11月11日～15日	○	○	○	-	○	○	○	-	-	○	○	○	-	【シャーマン】30個×11調査区 【墜落かん】30個×11調査区 【カメ】2個×4調査地区	【シャーマン】さきいか、ビーナッツ、イモ 【墜落かん】さきいか 【カメ】魚（アジ・サバ）	1	-	1	1	3	1	1	1	2	1	-	-	-	-	
	寺内ダム	【両爬】令和6年5月22日～24日、27日、7月29日～8月2日、10月28日～11月1日 【哺】令和6年5月22日～24日、27日、7月29日～8月2日、10月28日～11月1日	○	○	○	-	○	○	○	-	-	○	○	○	-	【シャーマン】30個×9調査区 【墜落かん】30個×9調査区 【はじき畏】2～3個×8調査区 【カメ】2個×2調査地区	【シャーマン】肉ソーセージ、サツマイモ、雑穀 【はじき畏】天ぷら 【カメ】魚のアラ	-	1	1	1	2	3	-	1	2	-	-	-	-	-	
巨勢川調整池(ダム)	小石原川ダム	【両爬】令和6年5月21日～24日、7月30日～8月1日、10月28日～11月1日 【哺】令和6年5月21日～24日、7月30日～8月1日、10月28日～11月1日	○	○	○	-	○	○	○	-	-	○	○	○	-	【シャーマン】30個×7調査区 【墜落かん】30個×5調査区	【シャーマン】ビーナッツ、サラミ	-	-	1	-	3	1	-	1	-	1	1	-	-		
	巨勢川調整池(ダム)	【両爬】令和6年5月8日～10日、6月12日～14日、10月1日～3日、令和7年2月3日～4日 【哺】令和6年5月8日～10日、6月12日～14日、10月1日～3日、令和7年2月3日～4日	○	○	○	-	○	○	○	-	-	○	○	○	-	【シャーマン】30個×3調査区 【墜落かん】30個×3調査区 【カメ】1個×3調査区 【モール】1個×1調査地区	【シャーマン】ビーナツ・さきいか 【カメ】イワシの切り身 【モール】ミミズ	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	

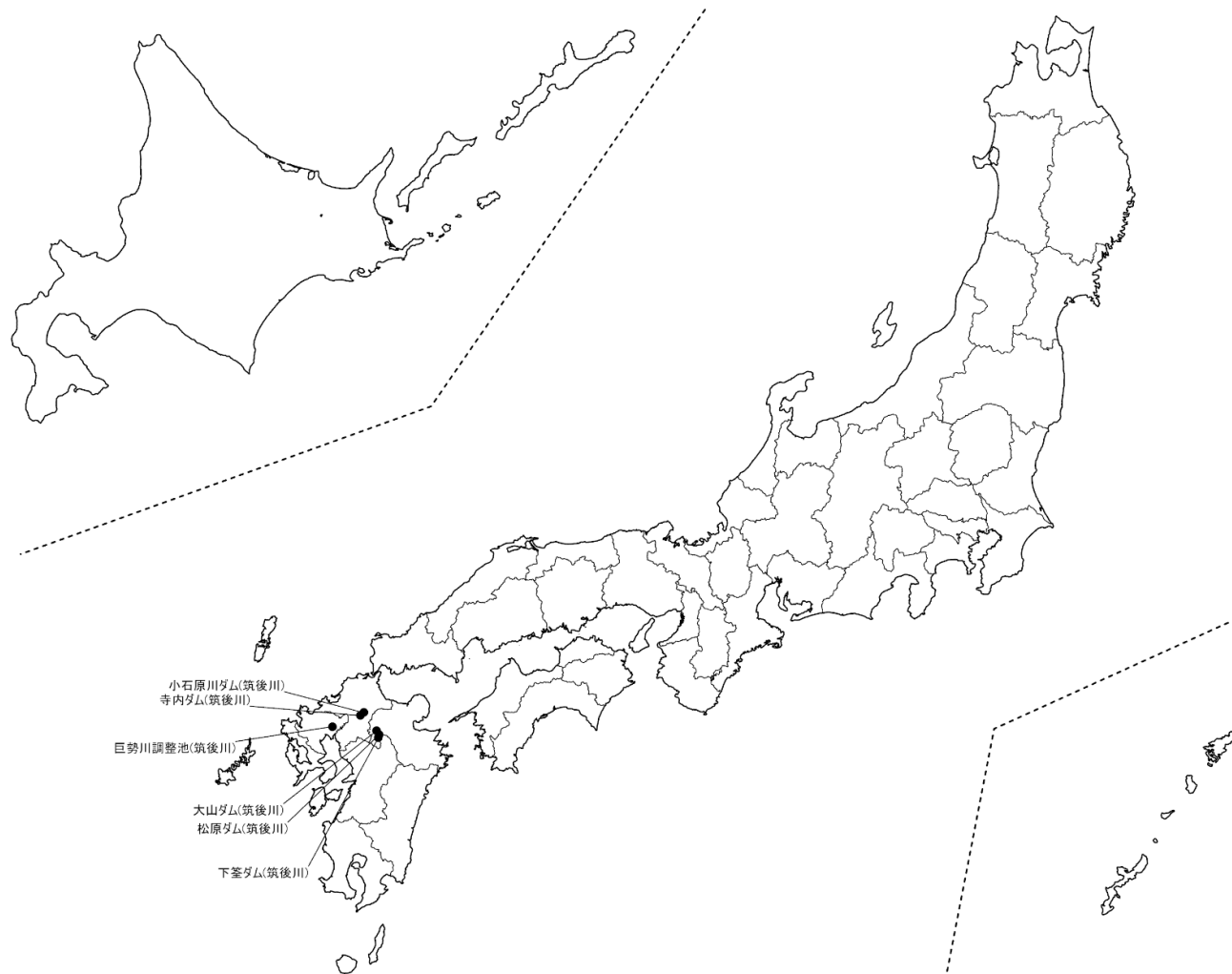


図 6-23 令和 6 年度 (2024 年度) とりまとめ対象水系 (ダム) 位置図 (両生類・爬虫類・哺乳類)